

ミクロネシア連邦
漁業訓練計画
運営指導（中間評価）調査団報告書

平成14年5月
(2002年)

国際協力事業団
森林・自然環境協力部

序 文

日本政府は、ミクロネシア連邦政府からの技術協力要請に基づき、平成 12 年 8 月からヤップ州ヤップ本島のミクロネシア短期大学附属ミクロネシア漁業・海事専門学校（FMI）において、「ミクロネシア漁業訓練計画」を開始しました。

この度当事業団では、本計画の現状と進捗状況を把握し、ミクロネシア側との合同中間評価を行うため、平成 14 年 3 月 5 日から 15 日まで、独立行政法人水産大学校助教授 深田耕一氏を団長とする運営指導（中間評価）調査団を現地に派遣しました。調査団は、ミクロネシア連邦政府関係者や派遣専門家と協議を行なうとともに、プロジェクト・サイトでの現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、調査結果を本報告書に取りまとめました。

今回の調査・評価・協議の結果が、本計画の協力目標達成に役立つとともに、この技術協力事業の実施が、今後の両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待します。

終わりにこの調査にご協力とご支援を頂いた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成 14 年 5 月

国際協力事業団
理事 鈴木 信毅



台風により破損した実習艇カシオペア
右舷船底に大きな穴があいているほか
船体全体の破損の度合いが大きい



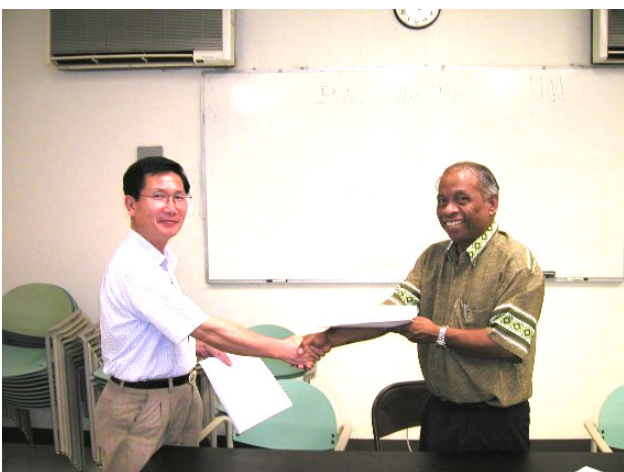
消火訓練用に建築されている施設
外装・内装共にほぼ完成している



供与されたレーダーシミュレーターを使用
してのデモンストレーションの様子



CoLlege of Micronesia における
プロジェクト合同調整委員会の様子



合同調整委員会後のミニッツ署名の様子
左側：深田調査団長
右側：スペンシン CoLlege of Micronesia 副校長

【参考写真】



図書室

専門書など蔵書の充実が望まれる

合同評価に参加した COM 副校長の S. James 氏



教室

OHP, スクリーン, ビデオ装置が完備している



航海分野訓練室

航海計器

MMFA 時代に供与された教材用航海計器も整備されている



航海計器

FMI になってから供与された SSB 無線機



可搬式消火装置と漁具 資材



救難信号自動発信機, 救難信号など

後方の棚には漁具資材が保管されている



漁業分野訓練室

まぐろ延縄漁具

長期専門家手作りの幹縄リール



まぐろ延縄漁具

後方にラインホーラー，ポンデンなどが保管されている



刺し網漁具



漁船機関分野訓練室

後方のディーゼルエンジン
で運転実習を行える



船外機

FSM の沿岸漁船にとって
船外機は必要不可欠である



漁船機関実習場

実習棟の外にも屋根付きの
作業スペースがある



溶接機



冷凍装置の模型

実際に運転可能で冷媒が流れる様子を見ることが出来る



中間評価調査団員

左から 佐藤泰昭
深田耕一
た水尾真也



日本から YFA に供与された 3 隻の漁船

これらの漁船を実習船として貸与の申請をしている



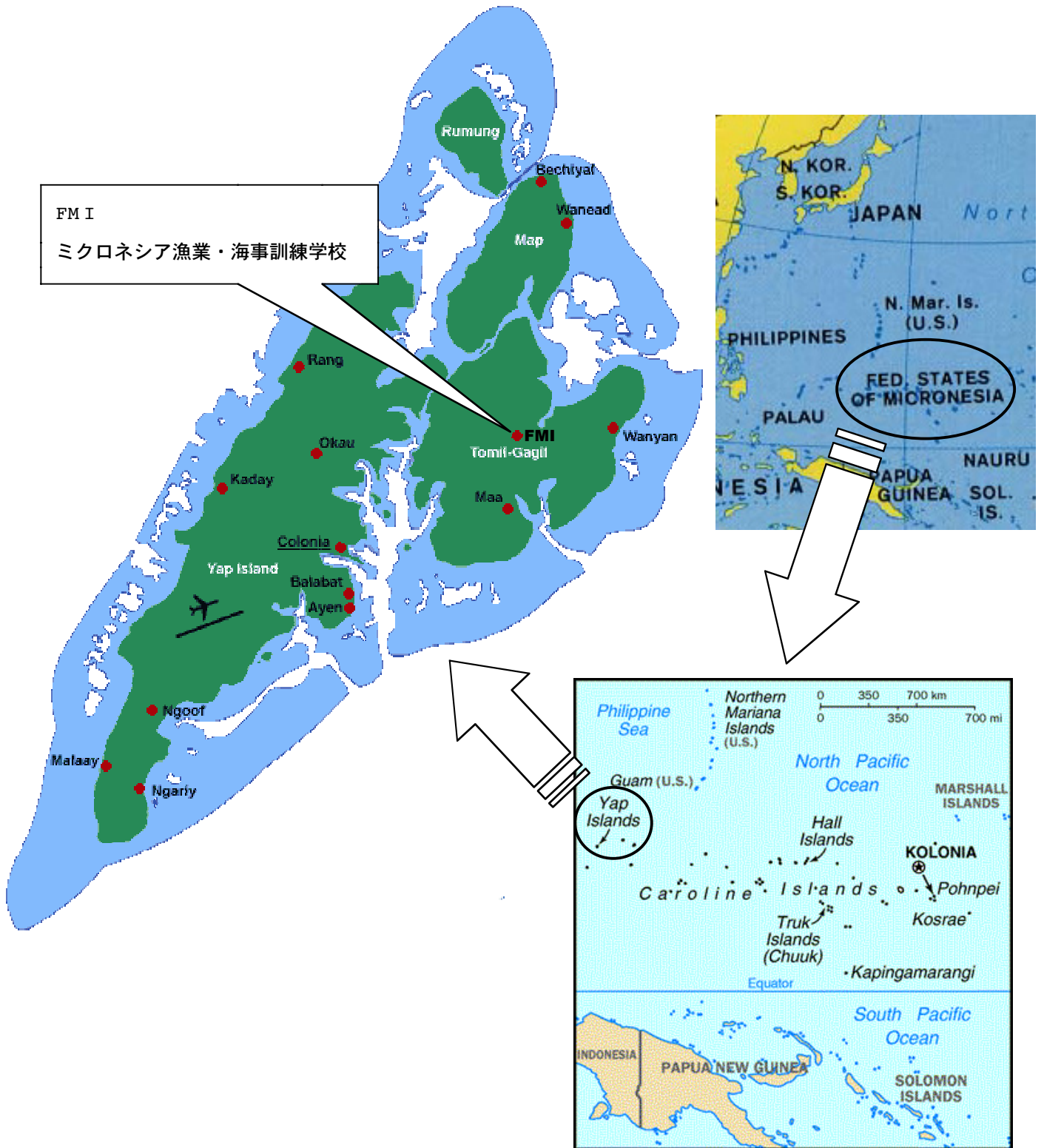
(ORION 号)



(FASIRAN 号)

2002 年 3 月 3 日の台風により船体左舷に大破口を生じ機関室に浸水している

プロジェクト・サイト 位置図



中間評価調査結果要約表

I. 案件の概要			
国名：ミクロネシア連邦	案件名：ミクロネシア漁業訓練計画		
分野：水産	援助形態：プロジェクト方式技術協力		
所管部署：森林自然環境協力部水産環境協力課	評価時協力金額： 千円		
協力期間： 2000年8月1日～2003年7月31日 (R /D) 2000年3月2日	先方関係機関：ミクロネシア短期大学 漁業海事専門学校 日本側協力機関：農林水産省（水産庁）		
1. 協力の背景と概要			
<p>プロジェクト開始当時、ミクロネシア連邦（FSM）は1986年の独立以来、米国との自由連合協定によりコンパクトマネーと呼ばれる資金援助を受けており、同国政府の財政収入のうち、コンパクトマネーの占める割合はおおよそ7割に達していた。しかし、米国との協定が2001年には終了となるため、国家としての自立を図るためにも米国からの資金援助に替わる代替財源を確保することが急務となっていたが、もともと天然資源に乏しく、島嶼国という地理的な条件からも産業の育成が困難な状況にある。</p> <p>FSM政府は、水産業を現実的な発展の可能性を有した数少ない産業分野のひとつであるとして、その育成の重要性を早くから認識しており、漁業公社を設立するなど商業漁業（特にマグロ漁業）の振興に力を注いでいる。しかしながら、現在同国におけるマグロ漁業は入漁方式による外国船の操業が中心であり、自立的なマグロ漁船の運用（乗組員の自国民化）は遅々として進んでいない状況にある。</p> <p>こうした背景の中で、FSMは自国漁業者の技術レベルの底上げを図ることを目的として、我が国に対し商業漁業の技術指導に関するプロジェクト方式技術協力を要請した。これまで我が国は各種調査団を派遣し、協力の可能性を検討した結果、同国がヤップ島に設立したミクロネシア漁業・海事専門学校（FM I）を拠点として、水産分野の人材を幅広く育成するための漁業訓練・教育を行うことを目的とするプロジェクトを行うことが決定された。同プロジェクトは2000年8月より活動を開始し、現在長期専門家4名（リーダー、漁業・航海、漁船機関、業務調整）により活動が行われている。</p>			
2. 協力内容			
(1) 上位目標			
水産分野の人材が育成される。			
(2) プロジェクト目標			
ミクロネシア漁業・海事専門学校（FM I）の漁業・航海・漁船機関分野の訓練システムが整備される。			
(3) 成果			
1) FM Iの訓練資機材が整備される。			
2) FM Iのカリキュラムが整備される。			
3) FM Iの訓練資材が整備される。			
4) FM Iの教官が育成される。			
5) FM Iの運営体制が確立される。			
(4) 中間評価時点での投入			
日本側：			
長期専門家派遣	4名	機材供与	55,169千円
短期専門家派遣	3名	現地業務費	17,136千円
研修員受入れ	4名		
相手国側：			
カウンターパート配置	6名		
土地・施設提供	FM I訓練施設		
ローカルコスト負担			

II. 中間評価調査団の概要

調査者	(1) 日本側 ・ 深田耕一 団長 / 漁業・航海 独立行政法人 水産大学校 助教授 ・ 佐藤泰昭 漁船機関 元 漁船機関技術協会 ・ た水尾真也 計画評価 JICA 神奈川国際水産研修センター 研修室職員 (2) ミクロネシア側 ・ Mr. Spensin James Vice President of Instructional Affairs College of Micronesia ・ Mr. Brent Villers Director for Vocational Education College of Micronesia	
調査期間	2002年3月5日～2002年3月15日	調査種類：中間評価

III. 中間評価結果の概要

1. 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクト中間時におけるその妥当性は、現時点ではプロジェクトの途中であり、完全に全ての取り組みがなされているわけではないため高いというわけではない。しかし、中央政府および州政府の意向などとプロジェクトの方向性が一致していることから、将来その妥当性は向上すると考えることができる。

(2) 目標達成度

各種環境も整備されていっており、プロジェクトの進行も順調であるため、目標達成度は比較的高いと考えることができる。しかし、簡潔な予算システムの確立、生徒の広報募集活動、生徒のシーサービス（海上訓練）受け入れ先の確保などの点が、今後の課題となると考えることができる。

(3) 効率性

効率性に関して、日本側の短期専門家派遣および C/P の本邦研修受け入れ、およびミクロネシア側の漁船機関分野の C/P の配置と FMI への予算の配分に問題があったため、プロジェクト進行に何らかの影響を与えたと思われることができるが、双方からの投入は改善されつつあり、投入に対する成果は確実に上がっている。

(4) インパクト

FMI は FSM における水産・海事分野の人材育成を行う機関として先駆的な役割を果たし、また船外機ワークショップなども地域の人々のニーズに良くマッチしたものであるため、関連業界・地域社会に与えるインパクトは大きいと考えることができる。中間時点としては良好な状態にあるが、水産業界へのインパクトは現時点では大きいとは言い切れない。

(5) 自立発展性

訓練機関として組織も良く整っており、C/P への技術移転も順調でその水準も高く、関係機関による支援も継続すると判断できるため、自立発展性は比較的高いと考えることができる。しかし、将来のさらなる自立発展のためには、簡潔な予算システムの確立と良質な人材を提供し続けることができる体制の整備が、今後の課題になってくると考えることができる。

2. 結果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

船外機ワークショップ等の訓練に関するセミナーの実施

(2) 実施プロセスに関すること

プレイスメントオフィサーによる学生の募集活動やシーサービス受入先の開拓

3. 問題点および問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし

(2) 実施プロセスに関すること

予算要求・執行システムの複雑さ

台風による実習船 Cassipeir の滅失

4. 結論

各種環境も整備されていっており、プロジェクトの進行も順調である。また、プロジェクトの方向性が中央政府および州政府の意向に沿っており、中間時点としてのプロジェクト状況は概ね良好である。課題としては、簡潔な予算システムの構築、実習船 Cassipeir に替わる代船の手配、産業界の期待に応えることのできるような各種体制の整備といった点を挙げる事ができる。

5. 提言

新規整備された図書館を活用した参考図書や副教材の充実、本邦 CP 研修受入に関する密接な情報交換システムの構築、内容により各種媒体を使い分ける広報の実施、質の高い人材育成を確実に実施するための実習船の確保、関係者による FMI の将来方向性の早期検討開始などが、プロジェクトにおける今後の検討課題であると考えることができる。

6. 教訓

水産系と海事系では希望する人材育成内容が異なる（水産系→即戦力・職業訓練的、海事系→上級船員育成）
ヤップの地元意識が非常に強い

目次

序文

写真

プロジェクト・サイト位置図

中間評価調査要約表

第1章 中間評価の概要	1
1-1. 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2. 調査項目	1
1-3. 調査団の構成と調査期間	2
第2章 中間評価の方法	3
2-1. PDM _E	3
2-2. 主な調査項目と情報・データの収集方法	3
第3章 調査結果	4
3-1. 現地調査結果	4
3-1-1. 分野別調査	4
(1) 漁業・航海分野	4
(2) 漁船機関分野	7
3-1-2. 運営体制整備の達成度	10
3-1-3. プロジェクト外部の現状	12
3-2. プロジェクトの実績	15
3-2-1. 投入	15
3-2-2. 成果	17
3-2-3. プロジェクト目標の達成度	22
3-3. プロジェクトの実施プロセス	22
第4章 評価結果	24
4-1. 評価5項目の評価結果	24
4-1-1. 妥当性	24
4-1-2. 目標達成度	24
4-1-3. 効率性	24
4-1-4. インパクトの見込み	24
4-1-5. 自立発展性の見込み	25
4-1-6. 阻害・貢献要因の総合的検証	25
(1) 計画内容に関するもの	25
(2) 実施のプロセスに関するもの	25
4-2. 結論	26
第5章 提言	27
別添資料：	
1. 調査日程	29
2. 主要面談者	33
3. 調査団ミニッツ	37

4. 第2回合同調整委員会ミニッツ	69
5. プロジェクト実績表 (Project Achievement Chart)	105
6. 評価グリッド	117
7. 当初のPDM (PDM ₁)	121
8. 活動計画表 (PO) (和文)	127
9. 収集文献・資料一覧	135

第1章 中間評価の概要

1-1. 調査団派遣の経緯と目的

1986年の独立以降、ミクロネシア連邦（以下「FSM」）が米国との自由連合協定により受けている資金援助（コンパクトマネー）は、現在、同国政府の財政収入のうちおよそ7割に達している。米国からの資金援助は2001年に終了する予定であり、国家として自立を図るために代替財源を確保することが急務であるが、もともと天然資源に乏しく、島嶼国といった地理的な条件からも産業の育成が困難な状況にある。

FSM政府は、代替財源として水産業が現実的な発展可能性を有した数少ない産業分野の一つであることは認識しており、これまでも漁業公社の設立等、商業漁業の振興に力を注いでいる。しかしながら、現在同国の商業漁業は入漁方式による外国船の操業（主としてマグロ漁業）が中心であり、乗組員の自国民化は遅々として進んでいない状況にある。

このような背景のもと、1998年、FSMは自国漁業者の技術レベルの底上げを図ることを目的として、我が国に対し商業漁業の技術指導に関するプロジェクト方式技術協力を要請してきた。これまで、我が国は各種調査団を派遣し、協力の可能性を検討した結果、同国がヤップ島に設立したミクロネシア漁業・海事専門学校（FMI）を拠点として、水産分野の人材を幅広く育成するための漁業訓練・教育を行うことを目的とするプロジェクトを行うことが決定された。同プロジェクトは、2000年8月より活動を開始し、現在、長期専門家4名（リーダー、漁業・航海、漁船機関、業務調整）により活動が行われている（実施期間は、2000年8月1日から2003年7月31日）。

主な活動は、設立されたばかりのFMIの運営体制の整備であり、具体的には、訓練資機材の整備、カリキュラムの整備、訓練教材の整備、教官の育成、運営体制の確立を目指した活動を実施している。

本調査団は、運営指導（計画打合せ）調査において作成したPDM、PO等のモニタリング計画に基づき、プロジェクト目標、成果、活動及び投入における計画達成度について評価し、更にPCM手法における評価5項目により評価を行うこととした。また、これらの中間評価の結果に基づいて、PDMの再検討を行い、必要があれば修正を行うとともに、後半1年半の活動計画（PO）を検討し、提言を行った。併せて、協力期間終了後の対応方針を策定するために必要な、FMIの運営方針等についての情報収集を行った。

以上を取りまとめ、合同調整委員会においてミクロネシア側と日本側との間で協議を行い、協議議事録（ミニッツ）を作成し、署名・交換を行った。

1-2. 調査項目

ミクロネシア側と日本側による合同評価を通じて、協力期間前半における下記（1）の計画達成度を調査・分析し、下記（2）の観点から評価を行い、その結果を日本側及びミクロネシア側両国政府に報告するとともに、プロジェクトの計画内容の修正の必要性や実施体制・運営の問題点などを把握し、以後の協力期間における活動をより効果的なものにする

ための指導及び助言を行った。

(1) 計画達成度

- ア 投入実績（日本側及びミクロネシア側）
- イ 活動の実施状況
- ウ 成果の達成度
- エ プロジェクト目標の達成度

(2) 評価（PCM 手法による評価 5 項目）

- ア 計画の妥当性
- イ 有効性（目標達成度）
- ウ 実施の効率性
- エ インパクト
- オ 自立発展の見通し

(3) 協力期間後半の活動計画

- ア PDM（プロジェクト・デザイン・マトリクス）の再検討
- イ 協力期間後半における PO（活動計画表）の作成

(4) 協力期間終了後の対応方針を策定するために必要な情報収集を行う（別添 3 参照）。

1-3. 調査団の構成と調査期間

調査団の構成は以下の通り。

分野	氏名	現職
総括／漁業・航海	深田 耕一	独立行政法人水産大学校 助教授
漁船機関	佐藤 泰昭	元（社）漁船機関技術協会 顧問
計画評価	た水尾 真也	JICA 神奈川国際水産研修センター 研修室 職員

調査期間は、2002 年 3 月 5 日から 3 月 15 日までであった（詳細は別添調査日程を参照）。

第2章 中間評価の方法

2-1 PDM-E

本調査団によるプロジェクトの中間評価は、PCM (Project Cycle Management) 手法を用いたモニタリングおよび評価に基づいて行い、具体的な評価はプロジェクト開始時に作成された PDM (Project Design Matrix) を中間評価用の PDM-E として作成し直したものに基いて行った。PDM-E の作成は 2002 年 3 月 7 日午後に日本・ミクロネシア双方の調査団員全員によって行われたが、プロジェクト開始時に作成された PDM に変更を要する箇所はなく、今回の中間評価時においても、オリジナルの PDM を評価用の PDM-E として用いることができるとの判断に達したため、プロジェクト開始時に作成されたオリジナルの PDM を評価用 PDM-E として使用した。

2-2 主な調査項目と情報・データの収集方法

今回の中間評価調査では、プロジェクトにおける技術的側面および運営体制整備に関する進捗状況の調査を行ったほか、プロジェクトの妥当性やインパクト等に関する外部条件に関する調査を行った。各調査項目に対するデータの収集方法は下記の通りである。

(1) プロジェクトにおける技術的な進捗状況

漁業・航海分野および漁船機関分野につき、それぞれ専門家ならびに FMI インストラクター (C/P) へのインタビュー調査を行ったほか、FMI における各分野関連施設の現状を視察した。

(2) プロジェクトにおける運営体制整備の進捗状況

専門家ならびに FMI 運営スタッフへのインタビュー調査を行ったほか、FMI における関連施設の現状を視察した。

(3) プロジェクトの外部条件

プロジェクトの外部関係者 (連邦政府関係者、ヤップ州関係者、地元コミュニティなど) に対し、FMI に期待する点や FMI に対する支援および協力の可否などに関しインタビュー調査を行った。

第3章 調査結果

3-1. 現地調査結果

3-1-1. 分野別調査

(1) 漁業・航海分野

ア. これまでの経過

ミクロネシア漁業・海事専門学校（FMI）における本プロジェクトの漁業訓練・教育は2000年8月から活動が開始されている。プロジェクトの上位目標は水産分野の人材育成と設定され、具体的には、漁船漁業に従事する乗組員の育成であり、漁業技術とともに海技従事者としての資格・免許を有する人材の輩出である。一方、ミクロネシア連邦が1997年に批准したSTCW条約は2002年2月から実施されることとなった。STCW条約では、すべての船員に対して基礎的訓練であるSafety (ESS/BSS) courseの受講を規定し、当直業務に従事する船員についてはMultipurpose rating (MPR) course（または、Watch keeping rating (WKR) course）の受講を規定している。このため、FMIにおける訓練・教育はESS/BSS courseから始められ、2002年2月までに、ESS/BSS course 計6回、WKR course 計2回、Restricted class 6 計2回が開講された。

これらの訓練・教育には実習船が不可欠であるが、2002年3月3日にYap島を襲った大型台風によってFMI実習船Cassipena号は全損の被害を受けた。

- ・2002年10月22日から11月1日までの8日間、船外機ワークショップが開講された。本ワークショップはProject design matrix (PDM)のActivities 4に位置付けることができる。この講習を通じて教官のレベルアップが図られ、同様のワークショップの開催が可能になったと考えられる。

イ. 成果の達成状況

① 訓練資機材

本プロジェクトは実施期間が3年と短いことから、訓練資機材の供与はプロジェクト前半に重点的に実施することが必要とされていた。2002年2月時点における達成率は、漁業部門44%、航海部門47%である。

② カリキュラム

長期専門家の指導によりカリキュラムの開発と年間訓練計画が作成されている。達成率は開講回数が多いコースほど高く、完成度の高いものとなっている。

③ 訓練教材

航海部門の訓練教材はSecretariat of the Pacific Community (SPC)のモジュールで提供されるため、本プロジェクトで必要となるClass 5 Master/Engineerまで揃えられている。しかし、2002年6月から実施予定のClass 6 Master/Engineer (CL6) で必要となるRadio telephony（無線通信技術）には

モジュールが提供されておらず、オーストラリアの **Radio operators handbook** が推薦されている。このため、長期専門家によってミクロネシアの実情に合わせた教材の作成が進行中である。また、2002年3月2日から29日まで、レーダーシミュレータ訓練プログラム開発を目的として、水産大学校から巽氏を短期専門家として派遣中であり、カリキュラムおよび教員用訓練指導マニュアルの作成が行われていた。漁業部門の教材は長期専門家によって開発されるが、カリキュラムに登場するのは **Restricted class 6 (RCL6)** からである。RCL6 で用いられる **Basic fishing module** は完成しており、CL6 で必要となる **Advanced fishing module** も既にドラフトが作成されている。

④ 教官

教官の育成については長期専門家によって教材作成指導、訓練機材の操作運用法および授業への導入法指導、模範授業の実施、中間・期末試験問題作成指導、担当科目のローテーション、日常業務を通じて順調に行われている。航海担当教員1名の採用が未実施であるが、適任者の確保は困難と見られている。

ウ. 今後1年半に残された課題と達成の見込み

① 訓練資機材

今後の1年半の間に **class 5** を開講するための訓練資機材を整備するためには供与予定機材を早期搬入し、使用法と活用法の習熟を図ることが重要である。また、**Cassiopeia** 号を想定して整備された資機材については改造等を必要とする可能性がある。

② カリキュラム

CL6までのカリキュラムはほぼ完成しているが、CL5については作業が10%程度しか進んでいない。航海部門については **STCW** 条約に合致するカリキュラムを組むことで達成できるが、CL5における漁業部門の位置付けが明確になっていないので、カリキュラムへの組み込みに関して検討する必要がある。

③ 訓練教材

2002年6月開講予定のCL6の教材（達成率37%）については急ピッチで作成作業が進んでいるが、CL5については未着手である（達成率0%）。CL5の開講は2003年度になると思われ、航海分野の教材については **SPC** モジュールが使用できるので充分達成が見込まれる。しかし、CL5においてCL6より高度の漁業部門の教材を開発するのであれば多大の努力が必要と考えられる。

④ 教官

現在、**FMI**の教官は漁業・航海部門3名、機関部門3名の合計6名である。**ESS/BSS course** の各科目および **WKR course** における **Basic seamanship** は共通科目に位置付けられているが機関部門教官はこれらの科目を担当していな

い。このため、漁業・航海部門教官と機関部門教官の授業負担割合が7：3となっている。前記の各科目は船員としての基礎科目であるから両部門の教官による授業実施が望ましい。これによって、教官の交代、病欠等にも円滑な対応が可能となる。

エ. 提言

教材（図書、視聴覚教材）の充実：図書室の整備は完了したが蔵書が少ない。訓練・教育に参考となる書籍の充実が望まれる。技術教育においては視聴覚教材を活用することにより授業の理解度が大きく向上するので VTR 等の収集が必要である。

アシスタント（教官助手）の雇用：現在 6 名の教官が講義と実習を担当しているが、実習の準備・片付を担当する教官助手がいないため教官に大きな負担がかかっている。FMI 卒業生の中から優秀な人材を教官助手として雇用することは将来の教官を育成することにつながるので、教官助手のポストを確保することが求められる。

カウンターパート研修：カウンターパート（教官）の日本における研修は目的、分野、内容を詳細に検討した上で実施することが重要である。単なる見学、内容の不適合は研修員に不満を残すことはあってもプロジェクトの運営にプラスにはならない。

実習船の確保：Cassiopeia 号の滅失により代替の実習船を確保しなければならない。従来から行っている Yap fishing authority (YFA) の所有船を実習船として借用する交渉を推進する必要がある。

広報活動の充実：Yap 州では新聞もなく、FMS ではマスメディアによる広報活動が困難な状況にある。長期専門家の努力でニュースレターが 2001 年 8 月に発行されているが配布範囲は限定されるであろう。しかし、インターネットは普及しているので、FMI のホームページを作成して政府や州のホームページにリンクすれば有効な広報手段になる。

オ. 所感および総括

Project monitoring results に示された達成率は理想的な成果に対する値であり、100%に到達できることはないと考えられる。それにも関わらず、全体的な達成率は経過期間に対して妥当とみなせる水準に達していると判断された。

施設の整備は予定より遅れており、専門家・教官の執務室、各訓練室等は計画通りの配置が完了していない。また、2002 年 1 月末に完工予定の Fire fighting school も最終段階の工事が残っていた。しかし、ミクロネシアの国民性、資材調達環境を考慮するとプロジェクトの進捗状況は良好といえる。

FMI 卒業生の大半が基礎的訓練コースの修了生である現段階において就職状況を予測することは困難である。FMS 政府関係者は技術力があれば就職先が確保できると認識しており、National fishing corporation でも能力があれば雇用する意向が感じられた。

現地関係者のプロジェクト継続に対する要望は強いが、本プロジェクトに関しては PDM に記されたプロジェクト目標の達成に全力を尽くし、一旦プロジェクトを終了したほうが良いと考えられる。その後、FSM の水産業と FMI の将来像を描き、必要であれば新たなプロジェクトで臨むべきであろう。今回の調査では時間的な制約もあって、長期専門家とプロジェクト終了後の方向性について意見交換を行わなかった。後半といえども 1 年半しかないので、今から検討を開始する必要があると考える。

注：充足率、達成率は 2002 年 2 月現在の Project monitoring results および Project monitoring details (別添 5) による。

(2) 漁船機関分野

ア. これまでの経過

- ① 実習室の実習機材及び室内は 2001 年 2 月の計画打合せ時には整備が不十分であったが、実習機材の入荷に従って実習が出来るよう整備されつつあった。
- ② 教本については、SPC 作成の CD-ROM が入手されていたが、実状に合わない部分もあり見直しの必要があった。
- ③ CA は長期専門官の指導を得て、教本の見直し、講義のやり方、実習室での機関の取り付け・整備等の勉強を行った。

イ. 成果の達成状況

① 実習室の実習機材

平成 13 年度供与機材が遅れて入荷したとのことであるが、長期・短期専門官、CA の努力により実習室は実習が十分に行われるように整備された。

我々がヤップに居た 3 月 8 日に供与機材であるマリンギアのカットモデル機と 40ps 船外機×2 台が日本から入荷した。

② 教本

基本的には SPC 作成の教本が CD-ROM で入手されていたが、誤字（プリントアウト時文字化けしたのか）や古い形の機器で作成されており、例えば現在使用されていないヤマハ製ガソリン船外機で教本が作成されている。また、ガソリン船外機は 2 サイクル機関のみだったのが、3~4 年前より 4 サイクルの

ガソリン船外機が発売され、評判が良く使用者が増加傾向にあり、ヤップでも同様に現在使用されている機関で勉強するのが良いと考えて、これらを手直し、追加、削除して教本を作成していた。

Multi Purpose Rating (Watch Keeping Rating (Engine))と Restricted Class 6 についてはできていた。

③ 教官 (C/A)

長期・短期専門家の模範授業・個別指導、副教材の作成指導、パソコンの指導、実習室の整備等具体的な指導を受けた。

Multi Purpose Rating (Watch Keeping Rating (Engine))と Restricted Class 6 については、講義・実習はできるようになっていた。

2001年10月22日～11月1日(8日間)、一般を対象に「ガソリン船外機ワークショップ」を実施した。故障した一般所有のガソリン船外機2台を実習室に持ち込み、分解・故障個所の修理・部品交換、点検・運転確認の研修を石原短期専門家とC/Aで受講者12名を対象に行なった。一般の人はもちろんC/Aも大変勉強になったと喜んでいて。

ヤップ州政府の Speaker Mr Robert A Ruecho もガソリン船外機2台を所有しているのだから次回研修に参加したいと言っていた。

4月に再度「ガソリンの船外機ワークショップ」を計画している。また、船外機講習はプロジェクト活動の計画内である。

ウ. 今後1年半に残された課題と達成見込み

① 2002年5月から Class 6/A の研修が始まり、2003年7月までには Engine Class 5 の研修を始める予定なので、目標の Engine Class 5 までの研修は実施される。

② C/A と長期専門官が協力して Class 6/A、Engine Class 5 の SPC 作成の教本の見直しを行い、必要であれば修正を行う。

③ また、教えるのには、副教材が必要なので至急作成する。

- (1) 冷凍機の副教材
- (2) 電気の副教材
- (3) 溶接の副教材
- (4) その他(計測器の使い方、工作機器の取扱い等の基礎的なもの)

エ. 提言

① Engine Class 5 までを目標にした実施計画を達成することは出来ると思うが、Engine Class 5 は期限ぎりぎりの達成計画なので、C/A が完全に教育指導が出来るまでには時間が必要と思われる。

② 学生は **ESS/BSS** 又は **Multi Purpose Rating** の研修を終了した船員、国内法適用船の **Class6M/AE** の免許を取得した職員、**Engine Class5** 及びそれ以上をねらう職員と3つに分けられる。海技免許取得を考えると船員及び職員訓練養成学校となり漁業が抜けるが、少なくとも国内法適用の **Class6M/AE** の免許取得の学生には漁業を義務付けている。また、学校では船員とこの **Class6M/AE** 免許取得者が多くなると考えられる。

③ 修理・整備のできる技術者の養成が必要になる。

日本国内の漁船、商工船を見ても解るように最小限の乗組員で船を運航しており、以前のように乗組員が機器の修理・整備をすることは不可能で、例えば機関士はドックからドックまで、また、遠洋漁業は一航海事故無く運航するのを目的とし、修理・整備は陸上の業者に任せる方法を採用している。それで、法定予備品も少なくなっている。また、新しい機種ほど専門家でないと整備できないようになっている。

ヤップ港に日本より供与されたと思われる何隻かの小型船があるが、全てエンジントラブルが原因で使用できないと思われる。対応としては、

(1) 学校で技術者コースを作る。

(2) 船の乗組員に比べると人員は少なくすむので、日本で教育する。

④ **Mr Marcelino X Jbemai** は 2001 年 10 月 2 日～10 月 27 日「冷凍機、空調機器、漁業・航海計器、油圧機器等について整備方法等」を本邦で技術研修したが、研修は会社を次々廻って見学ただけで学びたいことが勉強できなかった。また、研修予定の「漁業・航海計器、油圧機器」の研修は無かったと不満を漏らしていた。現地と本部とで十分に話し合いを行った上で研修するよう改善すべきである。

⑤ **ESS/BSS** コースで航海・機関分野で **CP** の仕事が片寄っている件について

機関分野の話では、最初航海分野で **ESS/BSS** コースを行うとのことでスタートしたので、航海分野で教本を作成した。一緒にやるのであれば最初から共同して作成すべきだと縄張り争い的な話だったが、話し合いの結果解決したとのことであった。

今年度から **ESS/BSS** コースが少なくなるのも解決原因の一つと思われるが、今後どうすべきか考える必要がある。

オ. 所感

① 実習船「**CASSDPER**」が台風で使用不能となったため、この船の主機関及び付属品を取り外し、実習室に設置し、実習機として使用するため取り外し中であった。

- ② 機関分野においても、乗船実習はよりベターではあるが、実習船がない場合は陸上実習でも十分知識は得られ、シーサービスにて海上実習を得れば良いと思う。
- ③ 最初に問題になっていた英語力だが、上級になるに従い専門語も多くなるので、教本が英文のため読解力が重要となり、学生の英語力が心配である。
- ④ 研修生募集に現在船で働いている人、働きたい人をターゲットに PR しているが、中・高等学校の学生への PR も行う必要があると思う。
- ⑤ 一般を対象にガソリン船外機の研修を有料で行って好評だったが、学校の経営資金の一部としてこのようなことを実施するのも良いと思う。
- ⑥ FMI の将来は、ミクロネシアが漁業立国との考えで、例えば国費で船員養成に力を入れる等、国の方針を明確にしないと、日本側だけで考えてもどうにもならない。

3-1-2 運営体制整備の達成度

ア. これまでの経過

FMI の設立は 1999 年であるが、COM の分校としての活動が 2000 年 9 月からであるため、施設および内部機構がまだ十分に整っているとはいえない状況にあり、また COM 本部による支援体制もまだ十分には確立されていなかった。また予算の要求および執行に関して、そのシステムが複雑であり各種手続きに時間がかかるため、十分な予算の要求および執行が困難な状況にあり、2002 年度予算に関しても要求額の 75% しか配分されなかった。さらに、学生の実地訓練の場であるシーサービスの受け入れ先も十分には開拓されておらず、また学生の募集活動や広報も十分には行われていない状況にあった。

イ. 成果の達成状況

FMI のスタッフの配置やインフラに関しては確実に整ってきており、プロジェクト中間時点としての達成度としては十分な状況にあると考えることができる。また学生情報データベースの構築に加え、特に 2001 年 12 月から学生の募集およびシーサービス受け入れ先の開拓、さらに将来的には就職支援業務なども専門に行うプレイスメントオフィサーが配置されたことにより、これらの分野に関してもこれからの改善が期待できる。予算に関しては、問題として認識されているが、外部条件にも大きく左右される面もあるため、現在のところでは具体的な改善などの取り組みは行われていない状況である。その他ニュースレターの刊行なども行われているが、広報活動の取り組みはまだ十分とはいえない状況にある。

ウ. 今後 1 年半に残された課題と達成の見込み

プロジェクトの後半 1 年半に残された課題点として、予算の要求および執行システムの改善と、各種広報活動の充実が挙げられる。予算の要求および執行システムの改善に関しては、連邦政府や COM 本部も関係する問題であり、今後 1 年半の間での急激な改善はまずありえないと考えられる。しかし広報活動の充実に関しては、その求められることがホームページの立ち上げやオープンキャンパスの実施、さらにはラジオ等地元メディアを使つての学生やワークショップ参加者の募集等であり、既存の施設・機材を用いる事が可能であることから、その達成はスタッフ間の役割分担や業務調整が行われれば可能であると考えられる。その他、スタッフの配置やインフラ整備に関しては、まず問題なく達成されると思われる。また、学生の募集、シーサービス受け入れ先の開拓および就職支援業務などに関しては、FMI の方向性やパフォーマンスが FSM の産業界ならびに連邦政府やヤップ州政府のニーズに合致しているかどうかという点による部分はあるが、今回新たに配置されたプレイスメントオフィサーの業務が軌道に乗れば十分に達成できると考えられる。

エ. 提言

予算の要求および執行システムの改善に関して、可能であれば COM 本部からある程度の決裁権を FMI に移すことや、FMI の管理運営スタッフに専門分野の知識をもつ教頭的立場の人材を配置することなどが、スムーズな予算執行につながるのではないかと考えられる。また長期的には、FMI のパフォーマンスを高め、積極的に産業界ならびに連邦政府やヤップ州政府のニーズに合致する人材を輩出し、それを COM 本部や連邦政府にアピールし、FMI の FSM におけるステイタスを確立することも、その解決につながるのではないかと考えられる。さらに各種広報活動の充実に関し、ヤップ州の場合にはラジオが一般市民にとって一番の情報源であり、かつ無料で情報を流すことができることや、2001 年 10 月に行われた船外機のワークショップは潜在的なニーズが非常に高かったにもかかわらず、事前の募集広報不足で多くの人がワークショップの実施を知らないまま参加する機会を逸していたことなどから、今後はラジオの積極利用も望まれる。

オ. 所感

プロジェクト後半に向けて運営体制に大幅な変更の必要はなく、現状を維持しつつ不十分な部分を徐々に補っていくという現在のプロジェクト運営方法に問題は無いと考える。また、今回の中間評価時に、調査団の一員として COM 本部からはじめて関係者が FMI を訪問し、FMI が他の COM 分校とは異なるし

っかりとした管理・運営状況下にあることを実際に理解した。このことは、アメリカによるコンパクトマネーの使用状況の査察団が FMI を高く評価したことなども考え合わせると、今後の COM 本部による FMI に対する支援体制確立のため、良いきっかけを作ったのではないかと考える。

3-1-3 プロジェクト外部の現状

外部関係者（連邦政府関係者・ヤップ州関係者・コミュニティー）へのインタビュー調査結果、FMI におけるプロジェクト活動は評価されており、FMI への援助提供に関しても好意的な見解を表明するという点では概ね意見の一致をみることができたが、FMI に期待するものや将来の方向性に関する見解は、それぞれに異なる結果となった。またプロジェクト終了による日本からの援助の停止を危惧する意見が多かったほか、ヤップ州関係者は「地元意識」が非常に高いという点が印象的であった。具体的な外部関係者へのインタビュー調査結果の要旨は以下のとおりである。

ア. 連邦政府関連機関

① Department of Economic Affairs

FMI でのプロジェクト終了後も資金的な援助は続けて行くつもりであるが、他省庁とのかねあいもあるので必ずしも FMI の都合だけが優先されるものではない。資金的援助のプライオリティは、FMI のパフォーマンスによっても決定されが、FMI が FSM にとって重要な役割を果たし続ける限りその重要性については考慮して行く。

② National Oceanic Resource Management Authority

FMI は水産業の向上にも貢献しているが、海技士の養成しか行っていないような印象を受ける。もっと水産業全般（加工等も含む）をカバーする職業訓練校としての役割を果たして欲しい。また現在ミクロネシアの漁船乗組員は、外国人船員にその運航・管理を依存している状況にあり、しっかりとした技術を持ったミクロネシア人漁船員が養成されてくれば、これらの外国人船員をミクロネシア船員に置き換えたいと考えている。現在まで FMI が輩出してきた人材を考えると、OFCF（海外漁業協力財団）の研修のほうが水産業でつかえる人材（即戦力）を多く排出している。

③ Department of Transportation Communication & Infrastructure

FMI のような海事分野の訓練機関・施設はミクロネシアでは少なく貴重であるため、これからもできる限りのサポートを行ってゆきたい。FMI には（ミクロネシア）船員を STCW 条約に適合させるためのアップグレード研修を期

待している。FMIは一般的に認知度が低く、もっとCOMの助けを借り広報に積極的に取り組むべきである。

④ Department of Foreign Affairs

現在、FSMが日本からの援助で得るものと、日本がFSMに援助することで得るものが釣り合っている状態にあり、日本とFSMはお互いに良い関係にある。そのことはFMIでのプロジェクトに関しても言うことができ、日本はFSMから完全に撤退すべきではない。プロジェクト期間終了後も、(プロジェクト期間の延長も含め)何らかの援助は続けるべきである。

⑤ College of Micronesia

プロジェクト開始からの1年半は順調であると認識している。FMIの運営に関していろいろと努力はしているが、政府からの予算が確保されないとしっかりと運営することは不可能である。現在のFMIに関連する予算システムは複雑であり、この部分はしっかりと整備される必要がある。FMIでのプロジェクトは、まず基盤整備に集中すべきと考えている。将来的にはCOM分校をネットワークで結び、学生の相互交流を図ったりする事が可能なように整備して行きたい。教育内容に関しては、基本的に現状を維持し改善を行いながら、連邦政府が求めているクラス3レベルまでは段階的にレベルアップさせて行きたい。新規プログラム追加の必要はないと考えている。プロジェクト終了後も何らかの援助は必要である。

⑥ Micronesia Longline Fishing Company (民間)

FMIは商船員のみを養成しているように思えるが、漁船員の養成もして欲しい。とくに冷凍、冷蔵機の扱える人材が不足しており、漁船を増やせないという現状があるため、FMIで技術を持った人材を育成すればニーズはある。FMIのシーサービスを受け入れている経験から考えると、FMIの学生はヤップ州出身者に偏っているのではないか。FSMの学校である以上もっと他州からの学生も受け入れるべきである。またFMIへの入学資格には少なくとも高卒の学力が必要である。業界で人材が不足しているとはいえ、粗製濫造で育成された漁船員では役に立たない。

⑦ National Fisheries Corporation (法人)

機関系の保守のできる人材が不足しており、FMIでこの分野の人材育成にも貢献して欲しい。一般的にFMIの卒業生は現場(の厳しさ)を知らず、実際に雇ってもすぐやめてしまうので、雇った人員の中から見込みのある者を選んでFMIで訓練できればありがたい。また、FMIで技術力の高い人材が育成されるようになれば、現在漁船に乗っている外国人船員を、ミクロネシア船員に置き換えたいと考えている。基本的に水産業界のニーズは、商船員(上級海技士)の養成とは方向性がことなるため、もっと漁労技術などの職業訓

練的な内容も FM I の過程の中に盛り込んで欲しい。

イ. ヤップ州関連機関

① ヤップ州政府での合同インタビュー

(州知事・Resource and Development Office of Planning and Budget・Office of Administration Service・Marine Resource が参加)

FM I での活動は、人材育成という視点から非常に有意義であると評価している。しかし、水産だけでなく地元の経済発展に寄与するような長期の職業訓練的研修の実施も期待している。FM I の活動に対して、地元としてできる限りのサポートはするが、前提として連邦政府の(資金的)バックアップがなければ、ヤップ州だけでは援助していけない。船外機に関するワークショップは、地元のニーズにマッチしており非常に有益であった。

② Transportation Division

FM I は、ヤップのみでなく FSM 全体の航海士スキルの改善に寄与しており、高く評価している。今後も職業訓練ではないプロフェッショナル(上級海技士?)の育成を行う機関としての役割を期待している。また、シーサービス機会の提供などこれからも積極的に支援して行く。

③ Yap Fishing Authority

FM I の入学生選考のシステムをしっかりとさせた方がよいのではないかと? FM I の卒業生はモチベーションの低い者が多く、現場の厳しさを体験するとすぐに水産業をやめてしまい、なかなか定着しない。その背景には「FM I を卒業しなければ海事関連の職にありつけない」という噂があり、このことがモチベーションの低い学生が多くなる一因となっているのではないかと? 教育内容も連邦政府の要望ばかりに偏りすぎている感じをうけ、もっと地元のニーズを重視すべきである。そうすることにより、FM I に対する(地元からの)様々な援助(シーサービス機会の提供や実習のための船の提供)も増え両者にとって良い関係を築くことができる。もっと(沿岸・沖合漁業の)漁労技術全般を重視し、水産でリーダーシップをとれる人材を輩出して欲しい。

④ Manpower Division of Resource and Development

FM I でのプロジェクトの現状については高く評価している。現在ヤップ州では Yap State Human Resource Development Plan を実施中で、特に水産・農業・観光の3分野の人材育成を重視しており、FM I の活動は州政府の方向性と一致している。このプロジェクトは FSM として初めてのプロジェクトであり、しっかり引き継ぐために時間をかけ適切な人材を育成する必要がある、さらなる期間の延長が必要である。FM I への援助に関しては、米国からのコンパクトマネーの一部を FM I のプレイスメント活動補助として使用し、(プレイ

スメントオフィサーが使用する) PC の提供なども行っており、これからも協力はしていきたい。船外機ワークショップに対する地元のニーズは高く、離島居住者にも等しく参加の機会を与えるよう広報する必要がある。

⑤ **Yap State Legislature** (議長のインタビュー結果)

ミクロネシアの船員は技術がないため殆ど外国人で占められており、こういった外国人船員の枠をミクロネシア人船員に置き換えたいと考えている。また(個人的には)、地域振興と外貨獲得のため養殖業が必要であると考えており、養殖業にも積極的に取り組んで欲しい。FMIは有意義な活動をしているにもかかわらず、広報が弱い船外機ワークショップなどでは多くの人参加の機会を逸した。もっとラジオなどを広報に積極的に用いるべきだ。プロジェクトの後半1年半での課題は、いかに日本人専門家の代わりとなる人材を育成するかと言うことが急務であると考えている。

⑥ **Community Chief**

以前までは、集落の者だけが集落の地先の海で生活に必要な魚だけを採取しており、伝統的に資源管理がうまく作用していた。しかし最近では若者や集落外の者がしきたりを守らず、ダイナマイト漁や電灯潜りを行うため、あちこちの海域で根こそぎ資源を採取してしまい、乱獲状態に陥っている。以前と比べ見かける魚種の多様性も乏しくなり、漁獲量および漁獲魚の体長も減少していった。FMIと集落(の住民)とは良好な関係にあり、現在問題は全くない。FMIで小規模なボートを作るような講習を地域に開講してもらえば、集落からの参加者も多いと考えられる。

3-2. プロジェクトの実績

3-2-1. 投入

(1) 長期専門家の派遣

指導分野	氏名	所属	派遣期間
チーフ・アドバイザー	佐藤 傳	(財) 海外漁業協力財団	2000.8.1~2002.7.31
業務調整	川田 晃弘	なし	2000.8.1~2002.7.31
漁業・航海	川本 太郎	(株) 極洋	2000.8.1~2002.7.31
漁船機関	三田 輝男	(株) OAFIC	2000.8.1~2002.7.31

(2) 短期専門家の派遣

指導分野	氏名	所属	派遣期間
プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM)	綿貫 尚彦	(株) OAFIC	2001.1.30~2002.2.18
漁船機関	元山 宥吾	ヤンマーディーゼル (株)	2001.3.22~2001.5.20
漁船機関	石原 晃	(財) シーパックス	2001.10.6~2001.12.6
レーダーARPA トレーニングプログラム開発	巽 重夫	独立行政法人水産大学校	2002.3.2~2002.3.29

(3) 研修員の受入

研修分野	氏名	主な受入先	受入期間
小型漁船の機関保守	Alex. M. Raiuklur	神奈川国際水産研修センター	2001.1.9~5.13
水産教育・準高級 (水産教育カリキュラム、運営体制等)	Matthias J. Ewarmai	静岡県立漁業高等学校、水産大学校、他	2001.6.26~7.12
漁船機関 (冷凍機器、空調機器、漁業・航海計器、油圧機器等についての整備法等)	Marcellino X. Jibemai	日新興業、他	2001.10.2~10.27
漁具・GMDSS (漁具 (まき網等) および漁具模型制作、GMDSS の理論および運用方法)	Patrick P. Peckalibe	ニチモウ日和山製網所、古野電気 (株)、他	2002.1.10~2.13

(4) 機材の供与

年度種別	主要機材	機材費
12年度 供与機材	ピックアップ、レーダーシミュレーター*、レーダー・プロッター・魚探**、OHP 動画モデル、エンジンカットモデル、液晶プロジェクター、ラインホーラー、エアコンプレッサ、油圧プレス、電気溶接機、船外機(アクセサリ、取付工事含む)、パソコン、電気溶接機(2)、ガス溶接・切断機(3)、VHF 送受信機、バッテリー充電器(2)	41,780 千円
12年度 専門家携 行機材	パーソナルコンピュータ(3)、プリンター(2)、ソフトウェア、FAX、工具、ジェネレーター、漁具、集魚灯、エンジンパーツ、トナー、OHP フィルム、書籍、ビデオ等	3,442 千円 (輸送費等 含む)
13年度 供与機材	パン、冷凍・空調実習装置、冷媒回収充填装置、高速洗浄機、切断機、調光装置、底刺網漁具、棒受網等	13,389 千円

13年度 専門家携 行機材	特殊工具、タコメーター、圧力計、真空計、マグネットプレー等	429千円 (輸送費等 含む)
---------------------	-------------------------------	-----------------------

*、**：レーダーシミュレーター及びレーダー・プロッター・魚探の据え付け等のため機材据え付け技師として鈴木伸一郎氏を2001年10月11日から10月28日まで派遣した。

(5) 現地業務費の負担

経費費目	12年度	13年度	計
一般現地業務費	3,000	6,567	9,567
施設等整備費		4,237	4,237
技術交換費		3,332	3,332

3-2-2. 成果

(1) FMI 訓練資機材整備 (成果1)

ア. 訓練資機材

FMI での訓練に必要な資機材は、評価時点で、別添5：“Project Achievement Chart” “Output 1: Facilities and equipment necessary for training at FMI are set up” の通り、漁業部門で44%、航海部門で47%、漁船機関部門で49%が整備されたと言える。日本側から供与された機材については、3-2-1.(4)を参照。

イ. 消火訓練施設 (Fire fighting school)

施設等整備費により、消火訓練に使用する消火訓練棟 (Fire fighting school) を建設中。

(2) FMI カリキュラム整備 (成果2)

長期専門家の指導により、カリキュラム開発が行われている。また、カリキュラム開発と共に、年間訓練計画の立案、改善およびコース運営指導が実施されている。

カリキュラム整備の進捗状況については別添5の “Output 2: Training curricula of FMI are developed and supplied” の通り、訓練コースの回数が多くなるにつれ完成度が高くなっている。

(3) 訓練教材整備 (成果3)

SPC が作成している教材 (SPC モジュール) を活用し教材を整えているが、SPC モジュールで提供されていない科目 (漁業、無線通信、機関実習、船外機等)

については、長期専門家、短期専門家によりテキスト開発が行なわれている。また、長期専門家の指導により、訓練用副教材の整備が行われている。

整備の進捗状況については別添5の“Output 3:Teaching materials for FMI are developed and supplied”の通りである。訓練コースの回数が多くなるにつれ完成度が増し、充実してくるのは当然といえる。また、パソコン・液晶プロジェクター等を使用したヴィジュアルな教材を作成しているが、これらの教材は講義を行なう上で非常に効果的と思われる。

(4) 教官育成（成果4）

FMI では現在、専門家の直接のカウンターパートとして、インストラクター（教官）6名が次表の通り配置されている。FMI の機構定員としては7名であるが、漁業・航海分野では漁業及び航海のインストラクター計3名全員に対して指導を行っており、柔軟に対応している。

表-2：カウンターパート配置

Title	Name of counterpart
1. Navigation	Mr. Benjamin James
2. Navigation	Vacancy
3. Fishing	Mr. Tioti B. Teburea
4. Fishing	Mr. Patrick P. Peckalibe
5. Marine Engineering	Mr. Marcellino X. Jibemai
6. Marine Engineering	Mr. Alex M. Raiuklur
7. Maintenance Enigneering	Mr. Joseph D. Falmed

ア. 日常指導

上記のカウンターパートに対し、長期専門家により以下の活動を通じて教官育成が行なわれている。

- ① 教材作成指導
- ② 訓練機材の操作運用法指導、授業への導入法指導
- ③ 模範授業の実施
- ④ 中間・期末試験の問題作成指導
- ⑤ 担当科目のローテーション
- ⑥ これら以外のコース運営等に関わる日常業務を通じての OJT

また、短期専門家により以下の項目において細かな指導が行われた。

- 1) 元山宥吾（漁船機関）：2001年3月22日～5月20日
 - a. 機関関係マニュアルの充実→マニュアル作成

- b. 訓練機台のカリキュラムへの活用→整備指導
 - c. 実習船の安全航行→整備指導
- 2) 石原晃（漁船機関）：2001年10月6日～12月6日
- a. 船外機講習会技術指導→プログラム、実習指導
 - b. 機関実習室整備指導
 - c. 船外機、FRP ボート整備指導
 - d. WKR 授業方法指導

また、供与機材（レーダーシミュレーターおよびレーダー・プロッター・魚探）の据付技師が機材据付の他、これらの操作法をカウンターパート・専門家に対しての指導を行なった。

イ. 船外機ワークショップ

2001年10月22日～11月1日（8日間）、一般を対象とした「船外機ワークショップ」を実施した。FMI として行なう初のワークショップである。

訓練コース中であること、また、一般を対象としているため、オフィスタイム後の5時～8時に座講および実習の組み合わせで行なわれた。参加料は80ドルであったが、12名の参加があった。このうちの10名はユリシー環礁からの参加であり、費用はコミュニティーが負担した。船外機は島における一般的な交通手段であり、ニーズの高さがうかがえる。

本ワークショップは石原短期専門家の指導の下、大成功を収め、次回開催の声が各地から上がっている。また、インストラクターの技術が向上すると共に、プロジェクト及びFMIの広報にも大きく寄与した。今後も定期的な開催を予定している。

ウ. 技術交換

2001年12月9日～20日、技術交換にてマーシャル漁業・航海訓練センター、キリバス漁業訓練センターおよびキリバス航海訓練センターを訪問した。目的は、

- ①キリバス、マーシャルのFMIと同タイプの訓練センターを訪問し、訓練コース・カリキュラム等について意見交換および情報収集を行なう。
- ②大洋州地域での漁業・航海訓練に実績のあるキリバスの訓練ノウハウについて学び、今後の活動の参考にする。

参加者は、川本、三田両専門家と上記6インストラクターである。

（成果）

・情報交換を通じカリキュラムの見直し、学内規律の厳格化、制服導入の必要性等の改善すべき点を確認できた。

- ・教官全員参加により、問題点の共通認識が得られた。
- ・事前に各教官の調査内容を明確にしておいたことにより、全員が目的意識を持って実施できた。

エ. ミクロネシアの海技免状更新講習

FMI にて、下記の要領でミクロネシアの海技免状更新講習が行なわれた。これは既存の海技免状を STCW95 に適合させるためのトレーニングで、対象はミクロネシア内の船員である。FMI からは 5 名（2/18 からは 1 名追加）のインストラクターが参加した。

表-3：アップグレードトレーニングコーススケジュール

Course	Date
Deck Officers	
Class 1 to 4 Upgrading	10 January – 24 January 2002
GMDSS	4 – 15 February 2002
Advanced Fire Fighting	18 – 22 February 2002
Basic Safety	25 February – 1 March 2002
First Aid	4 – 8 March 2002
Engineering Officer	
Class 2 to 4 Upgrading	14 January – 1 February 2002
Basic Safety	4 – 8 February 2002
Advanced Fire Fighting	11 – 15 February 2002
First Aid	25 February – 1 March 2002

(5) FMI 運営体制の確立

ア. 組織機構整備

別添 5：“Project Achievement Chart” にてわかる通り、組織機構整備については進んでいるものと遅れているものの差がかなり大きい。

人員配置に関しては、それなりに進んでおり、また、ニュースレターの刊行、学生情報データベースの構築等は実施されているものの、訓練生リクルート・シーサービス、アドミニストレーションシステムおよびその他の広報活動が遅れている。原因としては、

- ①FMI の設立が 1999 年とは言え、実際の活動は昨年 9 月からであり、施設および内部の機構がまだ完全に整っていない。
 - ②COM 本部の支援体制が構築されていない。
 - ③予算要求および執行プロセスがスムーズでない。
 - ④外部要因の部分が多い。
 - ⑤広報活動への取り組みが不足している。
- 等が考えられる。

イ. 訓練生のシーサービス受入状況

訓練生のシーサービス受入状況は、次表の通りである。FMI 訓練コースの全修了者数は 175 名であるが、このうち WKR の 41 名は現役乗組員であり、また、RCL6 の 45 名は ESS/BSS の修了者である。さらに第 5 回、6 回の ESS/BSS は WKR の現役乗組員であるため、実際にシーサービスを必要とする人数はおよそ 70 名であるにもかかわらず、うち 13 名がシーサービスを受けているのみである。

表-4：修了生シーサービス実績

Diving Seagull (民間)	2 (0)
MLFC (民間)	3 (0)
Micro Spirits (ヤップ州)	6 (2)
Caroline Voyager (連邦政府)	8 (4)
Japan (Kaimaki training)	3 (0)
合計	22 (9)

()内は現在の人数

現状では、CL6、MPR 以上の資格をとるためにはある一定期間の海上訓練または実務経験が必要となっているが、シーサービス受け入れ先がなかなか確保できない。その理由としては、FMI のフットワークが弱い、認知度が低い、ミクロネシアにおける受け入れ先となり得る船の絶対数の少なさや乗組員の空きが無い、未熟な乗組員を乗せたがらない等が考えられる。

対策として、フットワークを良くする、優秀な学生を作り受入れやすいような状況にする、広報・実績等により認知度を高める等が考えられる。このうち、フットワークを良くし、各受け入れ先候補（ミクロネシア内に限らない）との連絡を密にするために、FMI として Placement Officer のポストを設け、これらの業務を専門に行なう職員を配置することになり、12月5日着任した。

現在までに以下の活動を行っている。

- ①2001年12月8日～12月19日：学生リクルート（募集、乗船先アレンジ）のためにチューク、ポンペイ、コスラエ州出張
- ②2002年1月27日～2月7日：上記出張のフォローアップおよびアレンジのためにチューク、ポンペイ、コスラエ州およびグアム出張

ウ. 進捗状況モニタリング

今までに2回のモニタリングが行われた。結果は別添5の通り。

3-2-3. プロジェクト目標の達成度

2000年9月よりFMIにて実施した訓練コースおよび訓練生実績は以下のとおりである。

(1) ESS/BSS

第1回：2000.9.4～2000.9.22 対象：新規

第2回：2000.10.2～2000.10.20 対象：新規

第3回：2000.10.30～2000.11.17 対象：新規

第4回：2001.1.22～2001.2.16 対象：新規

第5回：2001.7.9～2001.8.3 対象：経験者（連邦船および州船現役乗組員）

第6回：2001.10.1～2001.10.26

対象：経験者（連邦船、州船および漁船現役乗組員）

(2) Restricted Class 6

第1回：2001.2.19～2001.4.2

対象：第4回ESS/BSS修了生（スライド）＋第1, 2回修了生

第2回：2001.4.23～2001.6.21 対象：第1, 2, 3回修了生

(3) Watchkeeping Rating Deck/Engineering

第1回：2001.8.6～2001.9.13 対象：第5回ESS/BSS修了生

第2回：2001.10.29～2001.12.6 対象：第6回ESS/BSS修了生＋現役乗組員

(4) 訓練生実績

表－1：訓練生実績

	ESS/BSS						RCL6 M/E		WKR D/E		Total	Completed
	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	1st	2nd	1st	2nd		
Yap States	20(3)	8(1)	12(1)	2(0)	7(2)	5(0)	12(2)	18(3)	5(0)	9(0)	98(12)	86
Pohnpei St.	0(0)	2(0)	0(0)	7(0)	7(1)	4(0)	7(0)	0(0)	7(0)	4(0)	38(1)	37
Chuuk St.	0(0)	3(0)	3(1)	4(1)	7(0)	5(0)	3(1)	4(1)	7(0)	5(0)	41(4)	37
Kesrae St.	0(0)	7(1)	1(0)	0(0)	1(0)	2(0)	0(0)	1(0)	0(0)	4(0)	16(1)	15
Total	20(3)	20(2)	16(2)	13(1)	22(3)	16(0)	22(3)	23(4)	19(0)	22(0)	193(18)	175

*1：()内は落第生数

*2：completedは訓練修了生

*3：合計数は延べ人数。

3-3. プロジェクトの実施プロセス

いくつかの問題はあるものの、おおむね設定されたプロジェクト目標を達成するための活動は滞りなく行われている。実施上の問題点は主に以下のとおり。

(1) カウンターパート配置

当初配置された人数は少なかったが、ミクロネシア側の努力と日本側の働きかけ等により、6名までが確保された。航海分野のインストラクターでミクロネシア側が規定する資格を有する人材は少ない。

(2) 練習船

現在 FMI では漁業実習・操船訓練用のために4トンクラスのディーゼル船1隻と FRP ボート1隻がある。船の能力・キャパシティにより、一度の多くの学生の訓練が行なえず、また、長期（数日）の実習が行なえない。このため、学生をいくつかのグループに分け、順番に実習を行なっているが、効率の悪さが指摘されている。

対策としては、独自の船を増やすか、使用時に他所から借用することが考えられ、交渉により YFA の漁船を使用できることとなった。一方で上述のディーゼル船が台風により破損したため、YFA の漁船で代替可能か等については未知数である。

第4章 評価結果

4-1 評価 5 項目の評価結果

4-1-1 妥当性

プロジェクトの妥当性はそれなりにあると言える。FSM およびヤップ州はその開発重点項目として、水産・農業・観光の3分野を主に挙げており、また FSM 船員には STCW 条約基準に適合するような再教育および再訓練が求められている。さらに自国船員を育成し、FSM 船籍の船（漁船を含む）の船員を外国人（東南アジア及び南米系）から FSM 国民へ入れ替えたいとする中央政府および州政府の意向などもあり、将来の FMI に対するニーズは向上すると考えられる。

4-1-2 目標達成度

プロジェクトにおける目標達成度は比較的高いと考えることができる。時間の経過とともに、プロジェクトでは各種設備およびカリキュラム・組織運営機能が着々と整備されていっており、研修コースもほぼ計画通り実施されている。しかし、簡潔な予算システムの確立、生徒の広報募集活動、生徒のシーサービス（海上訓練）受け入れ先の確保などに関してはまだ不十分であり、プロジェクト後半の1年半ではこれらの点がプロジェクトの十分な目標達成のための課題となると考えられる。

4-1-3 効率性

プロジェクトの効率性に関して、日本側の長期専門家の派遣には問題がなかったが、短期専門家および C/P の本邦研修受け入れ等に関して日程調整などの問題から遅れが生じ、そのことがプロジェクトの進捗に少し影響を与えた。その他日本側からの資材の供与に関しては、時期的および量的に問題はなかった。一方ミクロネシア側からの投入に関して、機関分野の C/P の配置が遅れたため、初期の機関分野におけるプロジェクト進行に少なからず影響を与える結果となった。また連邦政府から FMI への予算の配分も十分ではなく、このこともプロジェクトに何らかの影響を与えていると考えることができるが、COM 本部や連邦政府も関連する問題であるため、この点の改善に関しては時間を要すると考えることができる。しかし、双方からの投入は量的・質的に徐々に改善されつつあり、投入に対する成果は確実に上がっているといえる。

4-1-4 インパクトの見込み

FMI はその設立以来、FSM における水産・海事分野の人材育成を行う機関と

して先駆的な役割を果たすだけでなく、現在においても将来の水産・海事分野へ潜在的な人材を育成し続けている。また船外機ワークショップのような学外の人々を対象とした短期のコースの開催は、非常に好評であり、地域の人々のニーズに良くマッチしたものと考えることができる。以上のことから、プロジェクトが関連業界（特に海事系）および地域社会に与えるインパクトの見込みは大きいと考えることができ、中間時点としては良好な状態にあるといえる。しかしニーズが高いにも関わらず、水産業界へのインパクトは現時点では大きいとは言い切れず、水産のコンポーネントが始まるプロジェクト後半にその成果が期待される。

4-1-5 自立発展性の見込み

組織的・技術的な側面から考えると、プロジェクトの自立発展性の見込みは比較的高いと考えることができる。訓練機関として組織も良く整っており、また C/P への技術移転も順調に進んでいるようであり、その水準も高いと考えることができる。また関係機関による FMI 支援も、現時点では継続すると判断でき、自立発展性を見込みにかかる外部条件も良好な状態にあると考えることができる。しかし、自立発展のためには予算の確保は死活問題であり、簡潔な予算システムの確立と、関連業界に良質な人材を提供し続けることができるような（学生募集なども含む）さらなる体制の整備が、FMI の自立発展のための今後の課題になってくると考える。

4-1-6 阻害・貢献要因の総合的検証

(1) 計画内容に関するもの

水産業界において、漁労技術と船舶運航能力を持ち合わせた人材に対するニーズが非常に高いため、SPC モジュール以外の訓練プログラムを整備・実施することは、プロジェクトの今後に大きく貢献するものと考えられる。また、2001年10月に実施されたような船外機ワークショップ等の訓練に関するセミナーの実施も、海事・水産業界だけでなく、広く一般の人々にも裨益するため有益であると考えられる。

(2) 実施のプロセスに関するもの

FMI では、簡潔な予算システムが確立されておらず、各種予算の手続きに時間が要することは、タイムリーな予算執行を妨げるだけでなく、適切な予算請求の実施に対し阻害要因となりうる。また台風による実習船 Cassiopeir の滅失は、今後の各種実習の実施に対し大きな阻害要因となることは必至で

あり、産業界が望んでいる現場との格差を埋めるような実習実施も困難と思われる。一方、2001年の12月に配属されたプレイスメントオフィサーは、学生の募集やシーサービス受入先の開拓、さらには将来の就職支援事業などに大きく貢献すると期待される。

4-2 結論

FMIにおけるプロジェクトでは、各種設備およびカリキュラム・組織運営機能が着々と整備されていっており、研修コースもほぼ計画通り実施されている。また、一部に遅れのあった投入に関しても、量的・質的に徐々に改善されつつあり、C/Pへの技術移転も順調に進んでいる。またプロジェクトを取り巻く外部条件に関しても、プロジェクトの方向性が水産・農業・観光の3分野を開発重点科目と定め、技術力のあるミクロネシア船員を育成したいとする中央政府および州政府の意向に沿っており、プロジェクト中間時点としてのプロジェクト状況は、概ね良好であると言える。しかし課題が無いとは言えず、プロジェクトの後半部分においては、簡潔な予算システムの構築や実習船 Cassiopeir に替わる代船の手配、産業界の期待に応えることのできるような各種体制の整備といった点に課題を残している。

第5章 提言

(1) 参考図書や副教材の充実

現在の FMI では、漁業・航海分野ならびに漁船機関分野ともに SPC モジュールをベースとし、その内容や過不足に応じてオリジナル教材の作成・整備が進んでいるが、参考図書や副教材の整備に関してはまだ十分とは言えない。今回整備された図書館を充実させるという意味でも、主となる教材内容の理解を補助するような参考図書や副教材の充実が今後必要である。

(2) 本邦における C/P 研修

FMI の各インストラクター (C/P) には、その指導技術と専門知識・技術の向上を目的とした C/P 研修が本邦で実施される。しかし、現在までに実施された研修につき、その全ての内容に問題がなかったわけではなく、インストラクターによっては不満足な内容の研修を受けた者も存在した。そのため、本邦研修の受入においては、インストラクター・プロジェクト専門家・JICA 本部プロジェクト担当・JICA 国内機関研修担当が事前連絡を密接に取り合い、お互いの要望や実施の可能性などを十分に考慮できるような、時間的に余裕を持った準備・対応が求められる。

(3) 広報活動の充実

プレイスメントオフィサーの配置により、学生の募集やシーサービス受入先の開拓に改善の兆しが見られるものの、FMI における広報活動は十分であると言える状態ではない。学生の募集活動に関しては、中・高等学校に的を絞った PR 活動やインターネットホームページの立ち上げ、各種ワークショップへの参加募集に関してはラジオの積極利用を行うことなどに加え、対外的な活動紹介等に関しても、従来のニュースレターにあわせてインターネットを積極利用することなどが有効であると考えられる。特に今後は、COM 本部や政府関係機関と協調した各種広報活動を行いながら、関係機関の意識を高めることも非常に重要である。

(4) 実習船の確保

台風による実習船 *Cassiopeir* の滅失は、プロジェクトの進行にとって大きな痛手となっている。産業界（特に水産業界）が望んでいる現場との格差を埋めるような実習の実施や、ニーズの高い冷凍機および漁船機関の保守を行うことのできる人材の育成のためにも、代船の手配は必須課題である。現実的な問題として、実習船の供与は実現の可能性が低いため、従来から行って

いる Yap Fishing Authority との船舶の借用交渉を推進させる必要がある。

(5) 将来方向性の早期検討

FMI の将来の方向性に関して、FSM における論調としてはプロジェクトの延長を求める声が多数を占めるものの、様々な関係者がそれぞれの意見を持っている状態にあり、その統一は全く計られていない。現時点ではプロジェクト中間時点と言えども、プロジェクト終了までには約 1 年半の期間しか残されておらず、終了時評価時に初めてその内容の検討を始めるようでは、関係者同士が混乱をきたす可能性がある。そのため、プロジェクト終了後の将来の方向性や、それに伴い予想される課題等について、現時点から関係者同士で徐々にでも検討を始めておく必要があると考える。

別添資料

1. 調査日程

調査日程

月	日	曜日	内 容
3	5	火	東京からグアムへ移動
	6	水	08:00 グアムよりヤップに到着 09:30 Yap Governor および関係者表敬・インタビュー 11:00 Transportation Division インタビュー 13:00 Yap Fishing Authority インタビュー 15:00 プロジェクト専門家との打ち合わせ 16:00 評価方法説明および FMI (Fisheries Maritime Institute) インストラクター (C/P) インタビュー
	7	木	09:00 評価方法説明および FMI インストラクター (C/P) 等インタビュー 11:15 Maap Wacholab 集落酋長インタビュー 14:15 PDM-E 作成・議論 15:00 FMI 副校長インタビュー 16:00 FMI 施設見学
	8	金	08:15 Manpower Division インタビュー 09:00 Yap State Legislature インタビュー 11:00 College of Micronesia インタビュー 14:00 プロジェクト専門家インタビュー (夜: Yap 関係者との懇親会)
	9	土	14:00 ミニッツ内容検討会
	10	日	ヤップからグアム経由でポンペイへ移動
	11	月	09:00 JICA/JOCV ミクロネシア駐在員事務所訪問 10:10 Department of Economic Affairs 表敬・意見交換 10:50 National Oceanic Resource Management Authority 表敬・意見交換 14:00 College of Micronesia 訪問・打ち合わせ 15:20 Department of Transportation Communication & Infrastructure 表敬・意見交換 16:30 在ミクロネシア日本大使館表敬
	12	火	09:15 Department of Foreign Affairs 訪問 10:00 College of Micronesia 訪問・打ち合わせ 14:00 第2回プロジェクト合同調整委員会 (夜: FSM 政府関係者との懇親会)
	13	水	09:30 Micronesia Longline Fishing Company 訪問・意見交換 10:30 National Fisheries Corporation 訪問・意見交換 14:00 在ミクロネシア日本大使館報告会
	14	木	ポンペイからグアムへ移動
	15	金	グアムから東京へ移動

別添資料

2. 主要面談者

主要面談者

(1) 日本人関係者

- ・ 安井兵典 在ミクロネシア日本大使館参事官
- ・ 斎藤宏 JICA/JOCV ミクロネシア駐在員事務所長
- ・ 佐藤博 プロジェクトチーフアドバイザー
- ・ 川田晃弘 プロジェクト業務調整
- ・ 川本太郎 プロジェクト専門家（漁業・航海分野）
- ・ 三田輝男 プロジェクト専門家（漁船機関）
- ・ 巽重雄 短期専門家（独立行政法人 水産大学校 助教授）
- ・ 児玉久実 JOCV 隊員（College of Micronesia 日本語教官）

(2) FSM (Federated States of Micronesia)連邦政府関係者等

- ・ Mr. Valentin Martin Marine Resource Conservation and Management Officer Department of Economic Affairs
- ・ Mr. Eugene R. Pangelinan Deputy Director of National Oceanic Resource Management Authority
- ・ Mr. Akillino H. Susaia Secretary of Department of Transportation Communication & Infrastructure
- ・ Mr. Lorin Robert Deputy Secretary of Department of Foreign Affairs
- ・ Mr. Kandhi A. Elieisar Assistant Secretary of Department of Foreign Affairs
Department of Transportation Communication & Infrastructure
- ・ Mr. Matthias R. Mangmrg Manager of Marine Safety & Inspection Branch of
Department of Transportation Communication & Infrastructure
- ・ Mr. Weiner Hadlley Assistant Secretary of Marine Transportation of
Department of Transportation Communication & Infrastructure
- ・ Mr. Patrick Mackenzie Deputy Secretary of Department of Economic Affairs
- ・ Mr. Francis Itimai Head of Fisheries Section of Department of Economic Affairs
- ・ Mr. Ricky F. Cantero Officer of Department of Foreign Affairs
- ・ Mr. Joe Habuchmai Director of Academic Programs College of Micronesia
- ・ Mr. Peter Sitan President of National Fisheries Corporation
- ・ Mr. Luciano Abraham Acting General Manager of Micronesia Longline Fishing Company

(3) Yap 州関係者等

- ・ Mr. Vincent A. Figir Governor of Yap State
- ・ Mr. Robert A. Ruecho' Speaker of Fifth Legislature of Yap State

- Mr. James Gilmar Director of Resource and Development
- Mr. Jesse Raglmar Director of Office of Planning and Budget
- Mr. Aloysius Fong Director of Office of Administration Service
- Mr. Henry Falan Acting Chairman of Yap Fishing Authority
- Mr. Theo Thinnifel Interim Manager of Yap Fishing Authority
- Mr. Andy Tafileichig Chief of Marine Resource Division
- Mr. Larry Raigetel Chief of Manpower Division
- Mr. Moses Marpa Chief of Transportation Division
- Mr. Bruno Tharngan Chief of Maap Wacholab Community

(4) FMI 關係者

- Mr. Matthias J. Ewarmai Director of FMI
- Mr. Richard Bourner Assistant Director of FMI
- Mr. Augustino Sanemai Placement & Recruitment Officer of FMI
- Mr. Santus Sarongelfeg Registrar of FMI
- Mr. Benjamin James Instructor of FMI
- Mr. Tioti B. Teburea Instructor of FMI
- Mr. Patrick P. Peckalibe Instructor of FMI
- Mr. Alex M. Raiukhu Instructor of FMI
- Mr. Marcellino X. Jibemai Instructor of FMI
- Mr. Joseph D. Falmed Instructor of FMI

別添資料

3. 調査団ミニッツ

別添資料

4. 第2回合同調整委員会ミニッツ

別添資料

5. プロジェクト実績表 (Project Achievement Chart)

Project Achievement Chart

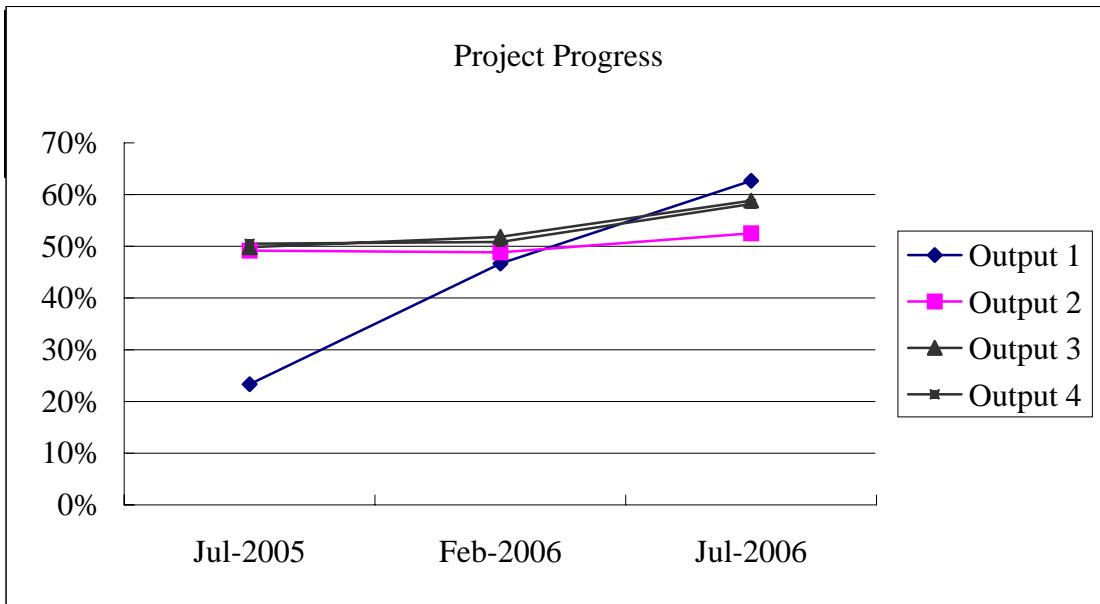
2003/3/17

ITEM OF STUDY	UNIT	TIME					
		Aug. 2001	Jan. 2002	July 2002	Jan. 2003	July 2003	
Overall Goal: Human resources in the fisheries sector are developed.							
1.Number of FMI graduates being candidates for officers or crew	(1)ESS/BSS	Person (number)	80	96			
	(2)RCL6		38	38			
	(3)CL6		0	0			
	(4)MPR		0	0			
	(5)WKR		0	41			
	(6)CL5M		0	0			
	(7)CL5E		0	0			
2.Number of FMI graduates having seaman's certificate	(1)Safety	Person (number)		0			
	(2)RCL6			0			
	(3)CL6			0			
	(4)MPR			0			
	(5)WKR			0			
	(6)WKRE			0			
	(7)CL5M			0			
	(8)CL5E			0			
3.Number of FMI graduates working for fisheries and other related sectors	(1)Fishing vessel	Person (number)		0			
	(2)Marine merchant vessel			0			
	(3)Fishing companies			0			
	(4)Government offices			0			
	(5)Engineering			0			
	(6)Others			0			
Project Purpose: Training system on fishing, navigation and marine engineering of FMI is enhanced.							
Number of training courses being provided in a specific period of time	(1)ESS/BSS	Number	5	6			
	(2)RCL6		2	2			
	(3)CL6		0	0			
	(4)MPR		0	0			
	(5)WKR		0	2			
	(6)CL5M		0	0			
	(7)CL5E		0	0			
Output 1: Facilities and equipment necessary for training at FMI are set up.							
Operation and maintenance condition of facilities and equipment	(1)Fishig	%	14	44			
	(2)Navigation		17	47			
	(3)Marine engineering		39	49			
	(1)ESS/BSS	%	90	85			
	(2)RCL6		70	70			
	(3)WKR		70	73			
	(4)CL6		45	45			
	(5)CL5M		10	10			
	(6)CL5E			10			
Output 3: Teaching materials for FMI are developed and supplied.							
Teaching materials	(1)ESS/BSS	%	96	96			
	(2)RCL6		86	86			
	(3)WKR		86	87			
	(4)CL6		31	37			
	(5)CL5M		0	0			
	(6)CL5E			5			
Output 4: Instructors of FMI are trained.							
Evaluation on technical and teaching levels of instructors who have been trained under the project.	(1)ESS/BSS	Level of class (%)	90	92			
	(2)RCL6		85	85			
	(3)WKR		78	78			
	(4)CL6		40	40			
	(5)CL5M		5	5			
	(6)CL5E			5			
Output 5: Administrative system of FMI is enhanced.							
Evaluation on operation and management system of FMI	(1)Personnel	%	85	92			
	(2)Financial aspect		48	58			
	(3)Infrastructure		69	87			
	(4)Administrative system		35	80			
	(5)Student recruitment		33	80			
	(6)Sea service enhancement		30	52			
	(7)Public information		15	23			
Important Assumption: Recipient vessels for the sea service for the FMI graduates/students are secured.							
Number of recipient vessels for the sea service which have been secured in a specific period of time	(1)Fishing vessel	Number	5	7			
	(2)Marine merchant vessel		4	3			
Important Assumption: Systems of seaman's certificate issuance at DOTC&I is updated.							
Evaluation on the systems of seaman's certificate issuance at DOTC&I.	(1)Domestic	%	29	45			
	(2)STCW Domestic		37	65			
Important Assumption: There are needs for human resources in the fisheries and other related sectors.							
Evaluation on needs for human resources in fisheries and other related sectors.	(1)Fisheries sector			umcompleted			
	(2)Other related sector			umcompleted			
Important Assumption: Trained instructors continue working for FMI.							
Number of trained instructors working for FMI.	(1)Fishing	Number	2	2			
	(2)Navigation		2	2			
	(3)Marine engineering		3	3			
Important Assumption: Number of students necessary for the provision of each training course are secured.							
Number of students having enrolled to the each of the courses.	(1)ESS/BSS	Number	91	107			
	(2)RCL6		45	45			
	(3)CL6		0	0			
	(4)MPR		0	0			
	(5)WKR		0	41			
	(6)CL5M		0	0			
	(7)CL5E		0	0			
Important Assumption: Necessary instructors and administrative staff to the project are assigned.							
Evaluation on the abilities of instructors and administrative staff to produce the expected	(1)Instructors	%		umcompleted			
	(2)Administrative staff			umcompleted			

ANNEX 1

Outline of Monitoring results

	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006	Jan-2007	Jul-2007
Output 1. Facilities and equipment					
Output 1 Fish.	14	44	57		
Output 1 Nav.	17	47	67		
Output 1 Eng.	39	49	64		
Full mark 300	23%	47%	63%		
Output 2. Training curricula					
Output 2 ESS/BSS	90	85	90		
Output 2 RC6	70	70	70		
Output 2 WKR	70	73	75		
Output 2 C6	45	45	60		
Output 2 C5 (Deck)	10	10	10		
Output 2 C5 (Engine)	10	10	10		
Full mark 600	49%	49%	53%		
Output 3. Teaching materials					
Output 3 ESS/BSS	96	96	96		
Output 3 RC6	86	86	86		
Output 3 WKR	86	87	88		
Output 3 C6	31	37	53		
Output 3 C5 (Deck)	0	0	0		
Output 3 C5 (Engine)	0	5	30		
Full mark 600	50%	52%	59%		
Output 4. Instructors are trained					
Output 4 ESS/BSS	90	92	93		
Output 4 RC6	85	85	86		
Output 4 WKR	78	78	80		
Output 4 C6	40	40	60		
Output 4 C5 (Deck)	5	5	15		
Output 4 C5 (Engine)	5	5	15		
Full mark 600	51%	51%	58%		



Contents of evaluation	Evaluation standard	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006
Output 1. Facilities and equipment				
Fishing				
New Fishing training vessel	16%	0	0	0
Longline fishing				
Linehauler for training boat	5%	0	5	5
Main drum	3%	2	3	3
Branch drum	3%	3	3	3
Longline fishing gear	11%	4	9	9
materials for above	5%	2	3	4
Midwater trawl fishing				
Trawl net	3%	0	1	2
Trawl door	3%	0	0	1
materials for above	3%	0	0	1
Gillnet fishing				
Gill net	0%	0	0	0
materials for above	5%	0	3	3
materials for above	3%	0	1	1
Other fishing gear				
Fishing gear arrangement tool	8%	0	3	3
Fishing gear arrangement tool	5%	2	3	3
Fishfinder for training boat	8%	0	8	8
Floating pontoon	16%	0	0	8
Fishing Classroom	0%	0	0	0
Fishing booklet	5%	1	2	3
	100%	14	44	57
Navigation				
Radar simulator	15%	0	12	12
GMDSS simulator	15%	0	0	7
Radar and GPS of training vessel	8%	0	8	8
BA	5%	1	3	5
Fire school	15%	0	5	10
Life boat	15%	0	0	5
Navigation tools	5%	1	3	3
Navigation Class room	15%	15	15	15
Navigation booklet	5%	0	1	2
	100%	17	47	67
Engineering				
Hand tools	20%	10	12	15
electric tools	20%	8	9	12
Spair parts	5%	1	1	2
Engine lab	40%	15	20	25
Engine class room	10%	4	6	8
Engine booklet	5%	1	1	2
	100%	39	49	64

Contents of evaluation	Evaluation standard	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006
Output 2. Training curricula				
ESS/BSS				
Draft time table	40%	40	40	40
Share of instruction	40%	40	35	35
Finalized timetable	20%	10	10	15
	100%	90	85	90
RC6				
Draft time table	40%	40	40	40
Share of instruction	40%	20	20	20
Finalized timetable	20%	10	10	10
	100%	70	70	70
WKR				
Draft time table	40%	40	40	40
Share of instruction	40%	20	23	25
Finalized timetable	20%	10	10	10
	100%	70	73	75
C6				
Draft time table	40%	40	40	40
Share of instruction	40%	5	5	10
Finalized timetable	20%	0	0	10
	100%	45	45	60
C5 (Deck)				
Draft time table	40%	10	10	10
Share of instruction	40%	0	0	0
Finalized timetable	20%	0	0	0
	100%	10	10	10
C5 (Engine)				
Draft time table	40%	10	10	10
Share of instruction	40%	0	0	0
Finalized timetable	20%	0	0	0
	100%	10	10	10

Contents of evaluation	Evaluation standard	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006
Output 3. Teaching materials				
ESS/BSS				
Text book	19%	19	19	19
Trainer's guide	19%	19	19	19
Transparency	19%	19	19	19
Training video	8%	5	5	5
Teaching plan	8%	8	8	8
Internal test/Assignment	8%	8	8	8
Final test	12%	12	12	12
Practical training plan	4%	3	3	3
Practical training check list	4%	3	3	3
	100%	96	96	96
RC6				
Text book	19%	19	19	19
Trainer's guide	19%	19	19	19
Transparency	19%	15	15	15
Training video	8%	3	3	3
Teaching plan	8%	8	8	8
Internal test/Assignment	8%	6	6	6
Final test	12%	10	10	10
Practical training plan	4%	3	3	3
Practical training check list	4%	3	3	3
	100%	86	86	86
WKR				
Text book	19%	19	19	19
Trainer's guide	19%	19	19	19
Transparency	19%	15	16	17
Training video	8%	3	3	3
Teaching plan	8%	8	8	8
Internal test/Assignment	8%	6	6	6
Final test	12%	10	10	10
Practical training plan	4%	3	3	3
Practical training check list	4%	3	3	3
	100%	86	87	88
C6				
Text book	19%	10	12	14
Trainer's guide	19%	10	12	14
Transparency	19%	8	10	10
Training video	8%	0	0	2
Teaching plan	8%	1	1	5
Internal test/Assignment	8%	0	0	2
Final test	12%	0	0	2
Practical training plan	4%	1	1	2
Practical training check list	4%	1	1	2
	100%	31	37	53
C5 (Deck)				
Text book	19%	0	0	0
Trainer's guide	19%	0	0	0
Transparency	19%	0	0	0
Training video	8%	0	0	0
Teaching plan	8%	0	0	0
Internal test/Assignment	8%	0	0	0
Final test	12%	0	0	0
Practical training plan	4%	0	0	0
Practical training check list	4%	0	0	0
	100%	0	0	0
C5 (Engine)				
Text book	19%	0	0	10
Trainer's guide	19%	0	0	5
Transparency	19%	0	5	10
Training video	8%	0	0	5
Teaching plan	8%	0	0	0
Internal test/Assignment	8%	0	0	0
Final test	12%	0	0	0
Practical training plan	4%	0	0	0

Contents of evaluation	Evaluation standard	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006
Practical training check list	4%	0	0	0
	100%	0	5	30

Contents of evaluation	Evaluation standard	Jul-2005	Jan-2006	Jul-2006
Output 4. Instructors are trained				
ESS/BSS				
Understand contents of text bo	30%	30	30	30
Develop teaching plan	20%	20	20	20
Develop teaching aids	20%	20	20	20
Teaching quality	30%	20	22	23
	100%	90	92	93
RC6				
Understand contents of text bo	30%	30	30	30
Develop teaching plan	20%	20	20	20
Develop teaching aids	20%	20	20	20
Teaching quality	30%	15	15	16
	100%	85	85	86
WKR				
Understand contents of text bo	30%	28	28	28
Develop teaching plan	20%	20	20	20
Develop teaching aids	20%	15	15	15
Teaching quality	30%	15	15	17
	100%	78	78	80
C6				
Understand contents of text bo	30%	15	15	20
Develop teaching plan	20%	15	15	15
Develop teaching aids	20%	10	10	15
Teaching quality	30%	0	0	10
	100%	40	40	60
C5 (Deck)				
Understand contents of text bo	30%	5	5	5
Develop teaching plan	20%	0	0	0
Develop teaching aids	20%	0	0	0
Teaching quality	30%	0	0	0
	100%	5	5	5
C5 (Engine)				
Understand contents of text bo	30%	5	5	10
Develop teaching plan	20%	0	0	0
Develop teaching aids	20%	0	0	5
Teaching quality	30%	0	0	0
	100%	5	5	15

Outputs 5 (1) personnel

	assignment	evaluation	Aug. 2001			Jan. 2002			July 2002			Jan. 2003			July 2003		
			a	e	total	a	e	total	a	e	total	a	e	total	a	e	total
a. director	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
b. assistant director	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
c. secretary	1	2	1	1	2	1	1	2			0			0			0
d. placement officer	1	2	0	0	0	1	2	3			0			0			0
e. librarian	1	2	0	0	0	0	0	0			0			0			0
f. registrar	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
g. quarter master	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
h. clerk	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
i. maintenance 1	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
j. maintenance 2	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
k. cook 1	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
l. cook 2	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
m. security 1	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
n. security 2	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
o. security 3	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
p. security 4	1	2	1	2	3	1	2	3			0			0			0
total	16	32	14	27	41	15	29	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0
result		48			85%			92%			0%			0%			0%

1) assignment: 1 point

2) evaluation: 2 point excellent 2, satisfy 1, failure 0

Outputs 5 (3) infrastructure

	install	evaluation	Aug. 2001			Jan. 2002			July 2002			Jan. 2003			July 2003		
			i	e	total	i	e	total	i	e	total	i	e	total	i	e	total
1) necessary facilities																	
a. class room (3)	6	6	4	2	6	4	4	8			0			0			0
b. computer room (1)	2	2	1	0	1	2	1	3			0			0			0
c. library (1)	2	2	1	0	1	2	1	3			0			0			0
d. staff office (5)	10	10	10	10	20	10	10	20			0			0			0
e. instructors office (3)	6	6	6	3	9	6	6	12			0			0			0
f. ware house (1)	2	2	0	0	0	0	0	0			0			0			0
g. store room (3)	6	6	6	4	10	6	5	11			0			0			0
h. dormitory (3)	6	6	2	2	4	3	3	6			0			0			0
i. caf_teria (1)	2	2	2	2	4	2	2	4			0			0			0
j. navigation lab. (1)	2	2	2	1	3	2	2	4			0			0			0
k. fishing lab. (1)	2	2	2	1	3	2	1	3			0			0			0
l. engine workshop (1)	2	2	2	1	3	2	2	4			0			0			0
m. on-line system	2	2	2	1	3	1	1	2			0			0			0
2) necessary equipment																	
a. vehicle (7)	12	12	12	11	23	14	14	28			0			0			0
b. copier (2)	4	4	4	2	6	4	4	8			0			0			0
c. phone	2	2	2	2	4	2	2	4			0			0			0
d. fax	2	2	2	2	4	2	2	4			0			0			0
e. computer (7)	10	10	5	5	10	8	8	16			0			0			0
f. printer (7)	10	10	5	5	10	8	8	16			0			0			0
total	90	90	70	54	124	80	76	156	0	0	0	0	0	0	0	0	0
result		180			69%			87%			0%			0%			0%

1) install: 2 point completed 2, almost 1, nothing 0

2) evaluation: 2 point excellent 2, satisfy 1, failure 0

3) computer, printerは便宜上10, 5 or 0 point

4) vehicle: Aug.2001-6, Jan.2002-7

Outputs 5 (2) finance aspect

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. FMI	10	25%	6	15%	6	15%		0%		0%		0%
b. COM HQ	10	25%	2	5%	2	5%		0%		0%		0%
c. budget amount	10	25%	5	13%	8	20%		0%		0%		0%
d. efficiency	10	25%	6	15%	7	18%		0%		0%		0%
total	40	100%	19	48%	23	58%	0	0%	0	0%	0	0%

Outputs 5 (4) administrative system

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. organization chart	5	5%	5	5%	5	5%		0%		0%		0%
b. duties and responsibilities for each position	20	20%	10	10%	15	15%		0%		0%		0%
c. procedures manual for discharging duties and responsibilities	50	50%	10	10%	35	35%		0%		0%		0%
d. all policies and procedures understood by all employees	25	25%	10	10%	25	25%		0%		0%		0%
total	100	100%	35	35%	80	80%	0	0%	0	0%	0	0%

Outputs 5 (5) student recruitment

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. assignment of placement officer	20	20%	0	0%	20	20%		0%		0%		0%
b. establishment of recruitment criteria	20	20%	10	10%	20	20%		0%		0%		0%
c. identification of target areas and making travel plans	10	10%	3	3%	10	10%		0%		0%		0%
d. cooperation with other COM campuses	25	25%	5	5%	15	15%		0%		0%		0%
e. cooperation with industries and concerned Gov.	25	25%	15	15%	15	15%		0%		0%		0%
total	100	100%	33	33%	80	80%	0	0%	0	0%	0	0%

Outputs 5 (6) sea service enhancement

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. assignment of placement officer	20	20%	0	0%	20	20%		0%		0%		0%
b. issuance of the proper record book	20	20%	15	15%	15	15%		0%		0%		0%
c. identification of company with right kind vessel with qualified seararers	10	10%	5	5%	5	5%		0%		0%		0%
d. information system to and from the student	25	25%	5	5%	7	7%		0%		0%		0%
e. student recipient list (company, organization and	25	25%	5	5%	5	5%		0%		0%		0%
total	100	100%	30	30%	52	52%	0	0%	0	0%	0	0%

Outputs 5 (7) public information

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. newsletter	20	20%	5	5%	5	5%		0%		0%		0%
b. FMI brochure	20	20%	5	5%	10	10%		0%		0%		0%
c. periodic radio releases	10	10%	3	3%	3	3%		0%		0%		0%
d. promotional video tape	20	20%	0	0%	0	0%		0%		0%		0%
e. home page on internet	10	10%	0	0%	0	0%		0%		0%		0%
f. others	20	20%	5	5%	5	5%		0%		0%		0%
total	100	100%	18	18%	23	23%	0	0%	0	0%	0	0%

Monitoring

Important assumption

1. Systems of seaman's certificate issuance at DOTC&I

(1) domestic

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. personnel post	20	20%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
b. regulation	20	20%	10	10%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
c. examination system	10	10%	5	5%	5	5%	0	0%	0	0%	0	0%
d. certification system	20	20%	5	5%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
e. registration list	10	10%	0	0%	5	5%	0	0%	0	0%	0	0%
f. renewal process	5	5%	2	2%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%
g. connection system between the Department and FMI	10	10%	5	5%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
h. public information	5	5%	2	2%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
total	100	100%	29	29%	45	45%	0	0%	0	0%	0	0%

(2) STCW95

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. personnel post	20	20%	10	10%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
b. regulation	20	20%	10	10%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
c. examination system	10	10%	5	5%	5	5%	0	0%	0	0%	0	0%
d. certification system	20	20%	5	5%	20	20%	0	0%	0	0%	0	0%
e. registration list	10	10%	0	0%	5	5%	0	0%	0	0%	0	0%
f. renewal process	5	5%	0	0%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%
g. connection system between the Department and FMI	10	10%	5	5%	10	10%	0	0%	0	0%	0	0%
h. public information	5	5%	2	2%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
total	100	100%	37	37%	65	65%	0	0%	0	0%	0	0%

2. There are needs for human resources in the fisheries and other related sectors

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
(1) fisheries sector												
a. fishing company list in the FSM												
b. number of employee capacity												
c. number of employee out of FSM												
d. number of fishermen' capacity												
e. number of fishing boat												
f. number of running boat												
g. stevedores/shore handler												
h. number of fish market sales persons												
i. fish processing persons												
j. government ministry personnel												
total												

(2) other related sector

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. number of seafares												
b. shipping company list in FSM												
c. number of employee capacity												
d. number of employee out of FSM												
e. tourism												
f. food factory												
g. government												
h. stevedoring companies												
i. manning companies												
j. chartering/ship management												
k. ship insurances companies/P&I												
l. freight forwarders												
m. ship surveyors												
n. naval architects												
o. classification societies												
p. ship building companies												
q. government ministry personnel												
r. all kinds of ships												
s. all shore support personnel												
total												

3. Necessary instructors and administrative staff to the project are assigned

(1) instructors

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. certificate	10	8%	0	0%	8	7%	0	0%	0	0%	0	0%
b. assignment of counterpart training	20	17%	0	0%	7	6%	0	0%	0	0%	0	0%
c. total hours of conduct the class or lecture	20	17%	0	0%	20	17%	0	0%	0	0%	0	0%
d. using or facilitate method of equipment	20	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
e. identify training needs of instructors	10	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
f. arrange for counterpart training on a staggered basis if necessary and	10	8%	0	0%	10	8%	0	0%	0	0%	0	0%
g. arrange for a group training for STCW95 qualification	20	17%	0	0%	20	17%	0	0%	0	0%	0	0%
h. certify a trainees as requires	10	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
total	120	100%	0	0%	65	54%	0	0%	0	0%	0	0%

(2) administrative staff

	standard (full point)	%	Aug. 2001		Jan. 2002		July 2002		Jan. 2003		July 2003	
			point	%	point	%	point	%	point	%	point	%
a. execute ability objectively	50	50%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
b. certificate	20	20%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
c. identify training needs of administrative staff	15	15%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
d. staggered training to be provided	15	15%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
total	100	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

別添資料

6. 評価グリッド

中間評価時における評価グリッド

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
実績	上位目標の達成度	①FMI卒業生の関連業界への就職者数 ②FMI卒業生の海技免状取得者数	①卒業生進路調査データ ②運輸省海技免状登録者データ	①～② 資料レビュー
	プロジェクト目標達成度	FMIでのコース開講状況	プロGRESSレポート	資料レビュー
	成果の達成度	①訓練資機材の運用状況 ②コースカリキュラムの作成状況 ③訓練教材の作成状況 ④インストラクターの指導技術 ⑤ミクロネシア側関係者への技術移転状況	①～③ プロGRESSレポート ④～⑤ インストラクター FMIスタッフ・専門家	①～③ 資料レビュー ④～⑤ インタビュー
	投入の実績	予算・人材（専門家・C/P・職員）・訓練資機材・訓練施設・事務所・小型実習艇・車両・C/P本邦研修	プロGRESSレポート	資料レビュー
実施プロセス	活動の進捗状況	実施計画に対する活動の進捗状況	プロGRESSレポート	資料レビュー
	相手国実施機関オーナーシップ	①実施機関責任者の参加の度合い ②予算の配分状況 ③C/Pの配置状況	①実施機関関係者 ②専門家・運営スタッフ ③プロGRESSレポート	①～② インタビュー ③ 資料レビュー
妥当性	上位目標と相手側の開発政策との合致状況	①FSMの水産政策 ②FSMにおけるFMIの位置づけ	①～② FSM関係部署担当者	①～② インタビュー
	プロジェクト目標と相手側ニーズとの合致状況	①FSM水産分野のニーズ ②FSM海事分野のニーズ ③FSM関係機関のFMIに対する期待	①～③ FSM関係部署担当者	①～③ インタビュー
目標達成度	プロジェクト実施によるFMI訓練システム整備状況	①訓練資機材整備・運用状況 ②カリキュラム整備・実施状況 ③訓練教材整備・運用状況 ④教官の育成状況 ⑤運営体制の確立状況 ⑥外部条件の変化	①～③ プロGRESSレポート インストラクター・専門家 ④～⑥ インストラクター FMIスタッフ・専門家	①～③ 資料レビュー インタビュー ④～⑥ インタビュー
効率性	投入に対する成果の達成状況	①投入の活用状況 ②投入のタイミング ③外部条件の変化	①～③ プロGRESSレポート インストラクター FMIスタッフ・専門家 FSM関係部署担当者	①～③ 資料レビュー インタビュー
インパクト	プロジェクト実施による波及効果	①地域住民の理解度 ②FSMにおけるFMIの認知度 ③FSMにおけるFMIの評価 ④FMI卒業生の業界への貢献度 ⑤予期しなかった波及効果	①～③ プロGRESSレポート 地域住民・専門家 インストラクター FSM関係部署担当者	①～③ 資料レビュー インタビュー

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
自立発展性	政策支援 継続の見込み	FSM 開発課題および業界ニーズに 対する FMI 活動の評価	FSM 関係部署担当者	インタビュー
	組織運営能力	① FMI の予算運営状況 ② FMI の組織確立状況 ③ 実施機関との連携状況 ④ モニタリング体制の確立状況	①～④ プログレスレポート 専門家・FMI スタッフ 実施機関担当者 インストラクター FSM 関係部署担当者	①～④ 資料レビュー インタビュー
	技術の定着度	インストラクターへの技術移転状 況	プログレスレポート 専門家・インストラクター	資料レビュー インタビュー
	そ の 他	自立発展性を阻害する外部条件の 変化	地域住民・専門家 実施機関担当者 FMI スタッフ インストラクター FSM 関係部署担当者	インタビュー

別添資料

7. 当初の PDM (PDM₁)

別添資料

8. 活動計画表（PO）（和文）

別添資料

9. 収集文献・資料一覧

収集文献・資料一覧

1. FSM Fisheries and Maritime Institute

(FMI 概要)

内容：行事予定、沿革、入学規定・手続き、規則、開講コース案内等

2. COLLEGE OF MICRONESIA-FSM

GENERAL CATALOG 2001-2003

(COM 概要)

内容：行事予定、沿革、入学規定・手続き、規則、開講コース案内等

3. PLAN FOR THE MANAGEMENT OF TUNA

IN THE FEDERATED STATES OF MICRONESIA

Micronesian Fisheries Authority, November 2000

(MFA による FSM マグロ資源管理計画)

内容：マグロ資源管理に係る問題分析、戦略等

以上